

1 年 次

<p><表現力を培う></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎英語 I A……………1- 1 ◎英語 I B……………1- 7 ◎フランス語※……………1- 14 ◎ドイツ語※……………1- 20 ◎中国語※……………1- 27 <p><人間の理解を深める></p> <ul style="list-style-type: none"> ○心理学……………1- 32 ○生活と科学……………1- 38 ○死生観の歴史※……………1- 45 ●人間関係論※……………1- 50 ◇女性学※……………1- 58 <p><倫理性を高める></p> <ul style="list-style-type: none"> ○倫理学……………1- 64 ●生命倫理……………1- 70 <p><倫理的思考力を培う></p> <ul style="list-style-type: none"> ●統計学……………1- 75 ○自然科学（生物）……………1- 82 <ul style="list-style-type: none"> ●（物理）……………1- 85 ●（化学）……………1- 89 ○数学※……………1- 92 	<p><感性を高める></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文学※……………1- 95 ●美術※……………1-100 ◇音楽※……………1-106 ●体育 I ※……………1-111 ◇体育 II ※……………1-115 <p><社会の理解を深める></p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会と医療・福祉・保健……………1-121 ○行政と医療・福祉・保健……………1-126 ○社会と法（日本国憲法を含む）※1-132 <p><人体の身体機能と病態を理解する></p> <ul style="list-style-type: none"> ○人体解剖生理学 I ……1-137 ●人体解剖生理学 II ……1-140 ○生化学……………1-143 <p><看護の基本となる科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションに関する技術1-146 ○看護学の基本 I ……1-151 ●看護学の基本 II ……1-157 ◎看護技術とアセスメント I ……1-164 ●災害看護学 I ……1-171 ●基礎看護学実習 I ……1-178
<p>◎通年科目 ○前期科目 ●後期科目 ◇集中講義 ※選択科目</p>	

区 分 名： 表現力を培う
科 目 名： 英語 I A
(英語名称： English I A)

【担当教員】 Régis de Lavison (レジス・ドラビゾン)

【開講年次】 1年次 【学 期】 通年 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義、演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

クラス形式には、会話の練習、ペアワークとグループワーク、クラスへのプレゼンテーションが含まれます。世界に関するトピックのディスカッションも、クラスの重要な部分を形成します。

【学習目標】

このクラスの主な目的は、学生が英語で一般的な能力を向上させることです。これには、基本的な文法の見直し、会話パターンの練習、そしてクラスディスカッションが含まれます。英語コミュニケーションのための会話とリスニングスキルの開発に焦点を当てます。

【テキスト】

CHALLENGE BOOK 4, ISBN (978-4-947736-55-0) 著者 Helene Jarmol Uchida
出版社 Little America

【参考書】

なし。

【成績評価方法】

出席＋交流活動 (20点)、レポート(HW)X4回 (20点)、期末試験(60点)。

【その他 (メッセージ等)】

このクラスを受講するには、出席と参加が必要です。成績には、テスト、参加、出席が含まれます。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	クラス紹介と説明
第2回	教科書 7~8 ページ	(説明と実践) 宿題: 10 ページ
第3回	プレゼンテーション 1	「自己紹介」
第4回	教科書 9~10 ページ	(説明と実践) 宿題: 12 ページ
第5回	プレゼンテーション 2	「友人の紹介」
第6回	教科書の 11~12 ページ	(説明と実践)、宿題: 14 ページ
第7回	プレゼンテーション 3	「私の家族のプレゼンテーション」
第8回	教科書 13~14 ページ	(説明と実践)、宿題: 16 ページ
第9回	プレゼンテーション 4	「お気に入りのスポーツ」
第10回	教科書 15~16 ページ	(説明と実践)、宿題: 22 ページ
第11回	プレゼンテーション 5	「私のお気に入りのレストラン」
第12回	教科書 22 ページ	(説明と練習)、宿題: 23 ページ
第13回	プレゼンテーション 6	「最高の修学旅行」
第14回	文化ポイント 1 「握手」	ディスカッションと Q&A
第15回	プレゼンテーションとグループ練習のレビュー	
第16回	教科書 23 ページ	(説明と実践)、宿題: 25 ページ
第17回	プレゼンテーション 7	「学校のクラブ」
第18回	教科書 24~25 ページ	(説明と実践)、宿題: 27 ページ
第19回	プレゼンテーション 2	「一番好きな曲」
第20回	教科書の 27 ページ	(説明と実践)、宿題: 28 ページ
第21回	プレゼンテーション 3	「私の家族のプレゼンテーション」
第22回	教科書 28 ページ	(説明と実践)、宿題: 29 ページ
第23回	プレゼンテーション 4	「一番好きな歌手」
第24回	教科書 29 ページ	(説明と実践)、宿題: 30 ページ
第25回	プレゼンテーション 5	「一番良かったコンサート」
第26回	教科書 30 ページ	(説明と練習)
第27回	プレゼンテーション 6	「最高の修学旅行」
第28回	文化ポイント 2 「旅行のチップ」	ディスカッションと Q&A
第29回	プレゼンテーションの復習と グループ練習 1	
第30回	プレゼンテーションの復習と	

	グループ練習 2	
--	----------	--

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせ		

			て効率的に入手することができる。		い
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島 の 災 害 か ら 学 ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論 理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考 えることができる。	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を 解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名 : 表現力を培う

科 目 名 : 英語 I B

(英語名称 : English IB)

【担当教員】 Peter Bryan McCann (ピーター・ブライアン・マカーン)

【開講年次】 1年次 【学 期】 通年 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

During their six years of English studies in junior and senior high schools most students did not get many chances to speak English or use English for practical purposes. This course will aim at giving students confidence in using English for communicating. Students will be introduced to a variety of real-life situations. The class will be conducted entirely in English

【学習目標】

The course will aim at teaching the students the basic daily conversational skills by being given the chance to practice language through communicative tasks, build their language strategies, and find their way to becoming more comfortable in the real world. Focus will be placed on listening comprehension and oral production. Many listening activities and speaking activities (role play and information gap activities) will be proposed during the course. Review and reinforcement of English language structures will help towards smoother and more effective communication. Students will be asked to participate actively in the class to make the most out of the course.

【テキスト】

Face2Face Pre-Intermediate Student's Book, Second Edition. Chris Redston & Gillie Cunningham. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

【成績評価方法】

A written test will be given at the end of the course that will account for 70% of each student's total score. Attendance will account for 20%, and for the final 10%, students will be assessed on their classroom participation throughout

the course.

【その他 (メッセージ等)】

Please remember that active participation in class is essential in order get the most out of it. Also, if you have any questions, please feel free to contact me at any time.

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	1A: Life stories	Vocabulary: introduction questions, common responses.
第2回	1B: Super commuters	Vocabulary: questions about travel, work Grammar: subject questions.
第3回	1C: Time off	Vocabulary: free time activities Grammar: frequency adverbs.
第4回	2A: Beginnings	Vocabulary: past time phrases Grammar: past simple
第5回	2B: How we met	Vocabulary: relationships Grammar: past continuous
第6回	2C: Coincidences	Vocabulary: adjectives, connecting words
第7回	3A: Getting qualified	Vocabulary: employment Grammar: <i>have to/had to</i>
第8回	3B: Job-hunting	Vocabulary: looking for a job Grammar: present Continuous vs Simple
第9回	3C: What a job!	Vocabulary: world ending - noun endings.
第10回	4A: Lookalikes	Vocabulary: types of film, past participles. Grammar: present perfect - life experiences.
第11回	4B: My music	Vocabulary: types of music Grammar: present perfect - <i>Have you ever...?</i>
第12回	4C: TV or not TV?	Vocabulary: TV nouns and verbs, <i>-ed</i> and <i>-ing</i> adjectives.
第13回	5A: A crowded planet	Vocabulary: the environment Grammar: <i>will</i> for prediction, <i>might</i> .
第14回	5B: Never too old	Vocabulary: collocations

		Grammar: <i>be going to</i> - plans and ambitions.
第 1 5 回	COURSE REVIEW	
第 1 6 回	6A: Teenagers	Vocabulary: adjectives - character Grammar: comparatives, quantifiers.
第 1 7 回	6B: Roles people play	Vocabulary: relationships Grammar: superlatives
第 1 8 回	6C: Family Business	Vocabulary: adjectives and prefixes: <i>un, in, im, dis.</i>
第 1 9 回	7A: 50 places to go	Vocabulary: travel Grammar: Present continuous for future arrangements
第 2 0 回	7B: What are you taking?	Vocabulary: things we take on holiday Grammar: quantifiers, possessive pronouns
第 2 1 回	7C: Wish you were here	Vocabulary: phrases with <i>go</i> .
第 2 2 回	8A: Home sweet home	Vocabulary: describing your home Grammar: present perfect with <i>for</i> and <i>since</i> .
第 2 3 回	8B: Meet the parents	Vocabulary: going to dinner Grammar: <i>should, shouldn't, must, mustn't.</i>
第 2 4 回	8C: Cultural differences	Vocabulary: common verbs; verb patterns
第 2 5 回	9A: Problems, problems	Vocabulary: everyday problems Grammar: first conditional, future time clauses
第 2 6 回	9B: Sleepless nights	Vocabulary: adjectives - feelings Grammar: <i>too, too much, too many, (not) enough.</i>
第 2 7 回	9C: Noisy neighbours	Vocabulary: phrasal verbs
第 2 8 回	10A: The collectors	Vocabulary: verbs used in the passive Grammar: present/past simple passive
第 2 9 回	10B: Shopping trends	Vocabulary: words with <i>some-, any-, no-</i> and <i>every-</i> Grammar: <i>used to</i>
第 3 0 回	COURSE REVIEW	

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめ	△	修得の機会はあるが、単位

	ぶ		とする各種連携の実際を理解し、説明できる。		認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考 えることができる。	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を 解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 表現力を培う
科目名： フランス語
(英語名称： français débutant)

【担当教員】 Régis de Lavison (レジス・ドラビゾン)

【開講年次】 1年次 【学期】 通年 【必修/選択】 選択必修

【授業形態】 講義、演習 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

挨拶、ウォーミングアップ、国際交流に役立つ会話、単語、文法、などの演習。

【学習目標】

会話中心で、フランス語はどういう言葉で、フランスやカナダはどんな国なのかについて理解することがこの授業の第一目標です。

やさしい文法を使って多くの単語を学びます。

【テキスト】

Ensemble (KOHGAKUSHA)

【参考書】

【成績評価方法】

出席+交流活動(20点)、小テスト&レポート X 4回 (40点)、期末試験 X 2回 (40点)

【その他 (メッセージ等)】

宿題は毎週1時間以内が必要です。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	会話1 (p.7) 国籍、職業	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第2回	同上+数字、自己紹介	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第3回	会話2 (p.15)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第4回	同上+数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A

第5回	会話3 (p.27)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第6回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第7回	会話4 (p.36)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第8回	同上+数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第9回	同上+12個の質問ゲーム	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第10回	会話5 (p.44)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第11回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第12回	会話6 (p.49)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第13回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第14回	p.53, ex. 73, 74, 75, 76, 77	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第15回	会話7 (p.55)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第16回	同上 + ex. 90	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第17回	会話8 (p.67)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第18回	会話9 (p.76)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第19回	同上+第一グループの動詞の活用・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第20回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第21回	会話10 (p.92)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第22回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第23回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第24回	p.106の文法	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第25回	会話11 (p.104)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第26回	会話12 (p.117) + 第3グループ動詞と代名動詞	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第27回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第28回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第29回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第30回	復習	まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解	

し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）によ		

			り、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性与倫理	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せるこ
		②	倫理性を高める科目		

	観をもつ 看護専門 職者	③	論理的思考能力を高める科目		とが単位認定 の要件である
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊 かな看護 専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知 識を示せるこ とが単位認定 の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに 対応する 実践能力 を備えた 看護専門 職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会が ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地 域 の 人々の生 命と暮ら しを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災 害から学 ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説		

			明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考 えることができる。	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題 を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 表現力を培う

科 目 名： ドイツ語

(英語名称： German)

【担当教員】 グンスケフォンケルン、M.

【開講年次】 1年次 【学 期】 通年 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義、演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

グローバル化している世界の中で、私たちがしなければならないことは、世界を知ることだと思います。この授業では、この視点に立って、明治時代以降日本と深い関わりを持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語圏の国々について学習します。

この講座はドイツ語圏の言語と文化に関して、以下の能力を身につけることを目指します。

【学習目標】

①「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR)のA1.1レベルのコミュニケーション能力：
場面に応じて、わかりやすく、相手のことを考えて、文化を考慮して表現できる。

②多文化理解力：

ドイツ語圏で適切に振る舞い、コミュニケーションできる。

言語と文化以外でこの授業を通じて身につけるべき能力：

①社交力(チーム力、議論や共同作業をする力)

②自己意識(自律性、責任力、自己批判力、創造力)

③社会的理解力(異文化の視点から自国の文化を理解する力など)

参考：→ ヨーロッパ言語共通参照枠(Wikipedia)

【テキスト】

第1回の授業の時に指示します。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価方法】

全授業回数の3/4以上の出席を評価の条件とします。

その上で質問への回答など授業への積極的な参加、小テスト、レポート、タスク課題等を総合して最終成績を決定します。

詳細については1回目の授業の際に説明します。

【その他（メッセージ等）】

授業へのご意見、ご要望は常に受けつけています。それが成績に影響することはありません。遠慮なく何でも言ってください。一緒に良い授業を作っていきましょう。

【授業内容(学習項目)】

テキスト通りに進めてゆきますが、必要に応じて学習者のドイツ語学習ペース等に合わせる予定なので、途中の予定変更も可能です。

前期にはテキスト前半、後期にはテキストの残り分を終える予定です。

具体的に次のようなテーマが出ます。

1) 多言語教育のコンセプトの理解（英語既習者に対するドイツ語教育）

- ・ 国際語（様々な言語で似ている言葉、例 Bier（独）、ビール（日）、beer（英）
- ・ ドイツ語から来た日本語の外来語、例 アルバイト（Arbeit）、ゲレンデ（Gelände）
- ・ 日本語から来たドイツ語の外来語、例 豆腐（Tofu）、布団（Futon）
- ・ 英語と似ている単語、文法の意識に基づいたドイツ語学習

2) 挨拶、自己紹介文の学習 I

3) 挨拶、自己紹介文の学習 II（例えば他のクラスメイトに自己紹介する）

4) 初めてドイツ人の留学生と会う時の学習（親称と敬称）

5) 住まいを案内する学習

6) ドイツ語圏と日本の文化や生活の違いについて話す学習

7) ドイツ語で数字の学習、他人紹介

8) 自分の好みについて話す、音楽、映画等について意見を言い表す学習

- 9) 長めのテキストを読む学習Ⅰ (コンテキストを理解し、想像力を用いてドイツのHPの長い文書を読む)、ドイツの音楽紹介
- 10) 一日の流れ、(大学の) 日常生活について話す学習
- 11) 週末の予定、趣味、自由時間についての学習
- 12) 自分の文化について話す学習、ドイツ圏と日本食文化、自分の食文化、好きな食べ物と嫌いな食べ物について話す学習
- 13) まとめ復習練習
- 14) 夏休み予定についての学習
- 15) 前期まとめ

- 16) 夏休みにしたことについて話す入門
- 17) 夏休みにしたことについて話す学習Ⅰ
- 18) 夏休みにしたことについて話す練習Ⅱ
- 19) 長めのテキストを読む学習Ⅱ (ドイツでの夏休み)
- 20) ドイツ観光スポット紹介
- 21) 福島観光スポット紹介 (チラシ作成学習)
- 22) ドイツへ旅行の予定を立てる学習
- 23) ドイツの基督教の降臨節について話す学習
- 24) ドイツと日本のクリスマスに関する話Ⅰ
- 25) ドイツと日本のクリスマスに関する話Ⅱ

- 26) ドイツと日本の大晦日、お正月に関する話
- 27) 冬休みにしたことについて話す学習
- 28) プロジェクト学習Ⅰ (内容は自由に選べます。)
- 29) プロジェクト学習Ⅱ (内容は自由に選べます。)

30) 後期まとめ

詳しくは各クラスの1回目の授業で担当教員がお知らせします。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					

1)	自己啓発 と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域		

			づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 表現力を培う

科 目 名： 中国語

(英語名称： Chinese)

【担当教員】 池澤 實芳

【開講年次】 1年次 【学 期】 通年 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義・演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

この授業は、基礎的な中国語の訓練を行なうことと、中国の社会や文化への興味・関心をもつ態度を身につけることにより、基礎的な中国語コミュニケーション能力の修得を目的とします。

【学習目標】

中国語の発音、基本的な文法事項・語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して中国語の基礎を修得するとともに、視聴覚教材などの鑑賞により、中国の社会や文化への興味・関心をもつ態度を培うことを学習目標とします。

以上の学習目標を達成するために、以下の5点の修得を具体的な学習目標とします。

- (1) ピンインを付した基礎的な語彙や簡単な文を正確に発音できる。
- (2) 基礎的な語彙や短い文を聞いて、理解し、簡体字やピンインで書き取ることができる。
- (3) 平易な日常会話ができる。
- (4) 目的にあわせて中国語の簡単な文を作ることができる。
- (5) 中国の社会や文化について、視聴覚教材などを通して、断片的ながら初歩的・基礎的な知識を修得するとともに、中国への知的関心をもとうとする態度を培うことができる。

【テキスト】

陳淑梅、劉光赤著『改訂版 しゃべっていいとも中国語』（朝日出版社）

【参考書】

適宜教室で紹介します。

【成績評価方法】

テキスト各課の練習・ドリルのレポートなど（70%）＋定期試験（30%）により、総合的に評価します。諸要因により定期試験を実施しない場合は事前に通知します。

【その他（メッセージ等）】

実際の授業の進度は、受講生の要望を採り入れたり、その他の諸要因により、シラバス通りに実施できず、進度を変更せざるをえないことがあります。以下の授業内容（学習項目）の進度は、一応の目安と考えて下さい。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入	中国、中国語の標準語、簡体字、ピンイン
第2回	第1課	発音(1)音節、声調
第3回	第1課	発音(1)不、一などの変調、ドリル
第4回	第2課	発音(2)単母音、複母音、ドリル
第5回	第3課	発音(3)子音1、ドリル
第6回	第4課	発音(4)子音2、本文
第7回	第4課	発音(4)鼻音、儿化、ドリル
第8回	第5課	ポイント1、2、練習
第9回	第5課	本文、ワードバンク、ドリル
第10回	第6課	ポイント1、2、練習
第11回	第6課	本文、ワードバンク、ドリル
第12回	第7課	ポイント、練習、本文、ワードバンク、ドリル
第13回	視聴覚教材1	感想メモ
第14回	視聴覚教材2	感想レポート
第15回	復習、第8課	発音復習、ポイント1、2、練習
第16回	第8課	本文、ワードバンク、ドリル
第17回	第9課	ポイント1、2、練習
第18回	第9課	本文、ワードバンク、ドリル
第19回	第10課	ポイント1、2、練習
第20回	第10課	本文、ワードバンク、ドリル
第21回	第11課	ポイント1、2、練習
第22回	第11課	本文、ワードバンク、ドリル
第23回	第12課	ポイント1、2、練習
第24回	視聴覚教材3	感想メモ
第25回	視聴覚教材4	感想レポート
第26回	第12課	本文、ワードバンク、ドリル
第27回	第13課	ポイント1、2、練習
第28回	第13課	本文、ワードバンク、ドリル

第29回	視聴覚教材5	感想メモ
第30回	視聴覚教材6	感想レポート

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	”
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
--	-------------	---	-----------	--	--

区 分 名： 人間の理解を深める

科 目 名： 心理学

(英語名称： Psychology)

【担当教員】 三澤 文紀、竹林 由武(医学部健康リスクコミュニケーション学講座)

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」を理解する方法やそれを用いた方法を学ぶ。

【学習目標】

- 1) 心理学の様々な考え方や知見があることを理解し、それぞれの特徴を理解している。
- 2) 心理学の主要な用語の意味について、授業の内容をもとに正しく答えることができる。
- 3) 人の行動や心理を心理学的視点から考えることに関心を持っている。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。講義内容に関する資料を配付する。

【参考書】

長田久雄（編） 看護学生のための心理学―第2版― 医学書院 2,400円＋税
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価方法】

期末試験、授業内の課題、出席状況、授業態度に基づき評価する。出席状況は、授業感想文や授業内の課題等で確認する。私語が多い、遅刻や早退が多い、授業で提示された課題や活動に取り組まないなど、授業態度が著しく不良な場合、総合評価の減点、もしくは期末試験の受験を認めないことがある。

【その他（メッセージ等）】

心理学の多様な考え方を学びましょう。受講生には積極的な学びの姿勢を求めます。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	心理学とは/感覚と知覚	心理学の概説/感覚・知覚、知覚の恒常性・体制化、「心理的現実」
第2回	性格・知能	性格の類型論・特性論、知能テスト
第3回	動機づけ	内発的動機づけ、自己効力感、欲求の五段階説
第4回	ストレス	ストレスのモデル、コーピング、バーンアウト
第5回	発達1	乳幼児期・児童期
第6回	発達2	青年期
第7回	発達3	成人期・老年期
第8回	社会心理	説得・態度、集団・社会的影響
第9回	精神分析	無意識、心の構造、防衛機制
第10回	クライアント中心療法	自己一致、共感的理解、傾聴
第11回	交流分析	自我状態、交流パターンの分析、交流の変更
第12回	認知行動療法1:基礎と行動的技法	エクスポージャー法、問題解決技法、行動活性化
第13回	認知行動療法2:認知的技法	認知再体制化、行動実験、マインドフルネス
第14回	家族療法	全体性、円環的認識論
第15回	家族療法からの発展	解決志向アプローチ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		位認定の要件である。
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		<p>⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。</p>	
--	--	--	--

区分名： 人間の理解を深める

科目名： 生活と科学

(英語名称： Human Life and Environmental Sciences)

【担当教員】 新規採用者未定

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

日本人の生活のあり方を基礎付けたものとは何か、それに根ざして日々の生活の中で育まれてきた日本人の様々な生活知に注目し、その背景やそれらが生み出した生活の特色とみられることを探究していく。

【学習目標】

一般目標

- 1) 日本人の生活の特色を生み出してきたものとは何か、わかるようになる。
- 2) 文化や社会のあり方と生活、健康、病気、障がいとの関わりがわかるようになる。

行動目標

- 1) 農業、特に、穀物の栽培が、一般にどんな特色を有する文化や社会を生み出すか、理解できる。
- 2) 日本人の死生観、生命観、人生観、病気観、障がい観が、どのような背景の下に形成され、特色を有するか、理解できる。
- 3) 生活の諸側面、特に、食生活のあり方と健康との相関を考察できる。

【テキスト】

必要に応じ、順次、プリントを配布します。指定しません。

【参考書】

講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

【成績評価方法】

出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。

欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日まで

に提出していただきます。万一未提出となった場合は、減点とします。なお、内容に問題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただきます、問題点の指導に当たります。

科目担当者の判断として、レポートの再提出の機会を設けません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待します。

万一、不合格となった場合は、11月に特設講座を開講し、再評価の機会を設けます。ゼミナールか講義に代替する課題に取り組んでいただき、鍛えます。その上でレポートを提出していただき、12月に成果を評価し、合否判定を行います。これでも不合格となった場合は、1月より改めて特設講座を開講し、再評価の機会を設けます。その上でレポートを提出していただき、2月に成果を評価し、合否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。

その他、諸々の詳細は、開講時に説明します。

【その他（メッセージ等）】

気楽、安易、暢気な態度、アンプロフェッショナルな（礼節を欠く、決まりを守れない、迷惑をかける、困難な状況にある人を思いやれない、健康づくりに取り組む姿勢に疑問があるなど、命に向き合う専門職として、他者からの信頼を損なう行為・言説のすべて）態度には厳しく措置します。常に適度な緊張感を携えて授業に出席し、レポート等にも取り組んでください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション、並びに、文化と生活知	大学での学び方を指導します。 文化、生活知とはどのようなものか講じます。
第2回	日本人の生活の基盤を築いた生業	生活知の凝縮とも言うべき代表的な年中行事を例に、日本人の生活の仕方に潜むこだわりやその背景をあぶりだす作業の触りをご紹介します、日本人の生活知の多くが農業に由来していることを明らかにすると共に、本講座において基調となる思考について講じます。
第3回	農耕文化の一般的特色	農業の始まり、穀類の栽培がもたらしたもの：定住・食料保存・時間的規則性など、世界の農耕文化に共通性の高い特色を講じます。
第4回	農耕文化の一般的特色・その2	前回の続きを講じます。

第5回	農耕社会の一般的特色	互助協同・分業・階層化： 農業を生業とする人々の社会にみられる共通性の高い特色とはどのようなものか講じます。
第6回	農耕社会の一般的特色・その2	前回の続きを講じます。
第7回	定住生活と健康・衛生	定住という生活の仕方は、健康や衛生の保持にも重大な影響をもたらしました。現代人の健康問題も射程に置きながら、特論的にその細部を講じます。
第8回	日本人の自然観1	時・空間の捉え方： 日本人は、日々の生活の時間や場面をどのように規則的に捉えてきたかを講じます。
第9回	日本人の自然観1-2	前回の続きを講じます。
第10回	日本人の自然観2	人生観・死生観・子ども観： 日々の生活の時間や場面の捉え方が、生命の捉え方にも大きな影響を与えているとみられることを講じます。
第11回	日本人の自然観2-2	前回の続きを講じます。
第12回	日本人の自然観3	植物観： 日本人は生活知としてどのような生命観を築いてきたのか、それを考える第一歩として、身近な植物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第13回	日本人の自然観4	動物観： 日本人は身近な動物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第14回	日本人の自然観4-2、 並びに、オリエンテーション	前回の続きを講じます。 レポートの課題を発表すると共に、グループワークによるレポート作成について指導します。
第15回	日本人の人間観	障がい観・病気観： 日本人は、生活知として人間や病気、健康をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを、障がいを負った人たちに対する捉え方を例に講じます。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動		

			できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○ 基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	— 修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。	
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）	

1)	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知 識を応用でき ることが単位 認定の要件で ある。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知 識を応用でき ることが単位 認定の要件で ある。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対 応する実践 能力を備え た看護専門 職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が ない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 人間の理解を深める

科目名： 死生観の歴史

(英語名称： History of views on life and death)

【担当教員】 末永 恵子

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

少子超高齢社会を迎えた日本では、いままでになかった勢いで、たとえば女性観、男性観、家族観、職業観、宗教観などが変化しています。何か確固とした理想的な生き方といったものは見つけにくくなってきました。そのようななかで、人間の生や死についての関心はととも高まってきています。

しかも、私たちは巨大な災害によって多くの人命が失われる事態に遭遇しました。「生きる意味とは何か、死とは何か」という問題を探求せざるをえなくなっています。死生観とは、人間の生と死をどのように把握し、どのようにこの問題と向き合うかといった考察です。古今東西の宗教や思想家がこの問題についてさまざまな考察を行いました。

この授業では、そのような死生観をふりかえり、さまざまな角度からこのテーマについて考えます。生と死に向き合う看護領域の営みにも参考になる授業を目指しています。

【学習目標】

・一般目標

古今東西の宗教や思想の死生観を把握するとともに、その死生観の社会的歴史的背景についても理解し、さらに現代の「生と死」の問題とも関連させて考察する態度を身につける。

・行動目標

- 1 各宗教および思想家の死生観を文献資料や映像から把握することができる。
- 2 伝統的の死生観と現代人の死についての意識とを比較し、論じることができる。
- 3 死生観の考察を通して、自己の死生観を育むことができる。

【テキスト】

指定しないが、毎回の授業でオリジナルの資料を配布する。

【参考書】

1. 金菱清（ゼミナール）編『呼び覚まされる霊性の震災学—— 3・11 生と死のはざま
で』新曜社、2016年
2. 山田 康弘『縄文人の死生観』角川ソフィア文庫、2018年
3. 五来重『日本人の死生観』講談社学術文庫、2021年
4. 島菌進『死生観を問う』朝日新聞出版、2023年
5. シェイマス・オウマハニー『現代の死に方：医療の最前線から』国書刊行会、201
8年

【成績評価方法】

授業への参画態度（質問・意見の表明25点）、ミニレポート（5×15=75点）の
内容を総合し、成績を決定する。

【その他（メッセージ等）】

死生観は生きていく間に他者（死者と生者）との関係をどのように構築していくかとい
う課題を問いかけます。自分はどのように他者とつながるのか、大きな問いをもちつつ、
考察を重ねてまいりましょう。授業が積極的な議論の場となることを願っています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入	ガイダンス：討論方法・レポート作成方法など
第2回	現代の死を考える	映画『おくりびと』、死者と生者、葬送の意義
第3回	看取りを考える	告知、悲嘆、死者とのつながり
第4回	仏教の死生観1	チベット仏教、輪廻転生
第5回	仏教の死生観2	原始仏教と現代仏教
第6回	仏教の死生観3	日本的仏教
第7回	道教の死生観	不老不死への道
第8回	儒教の死生観	沈黙の宗教、祖先祭祀
第9回	神道の死生観1	記紀神話 国学
第10回	神道の死生観2	国家と宗教 靖国神社
第11回	キリスト教の死生観1	旧約聖書
第12回	キリスト教の死生観2	キリスト教の成立と死生観
第13回	イスラム教の死生観1	イスラム教の基礎知識
第14回	イスラム教の死生観2	クルアーンの死生観
第15回	総括	総合討論

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区分名： 人間の理解を深める

科目名： 人間関係論

(英語名称： Human Relations)

【担当教員】 新規採用者未定

【開講年次】 1年次 【学期】 後期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に拠りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究します。

【学習目標】

一般目標

社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相関的に考察できるようになる。

行動目標

- 1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。
- 2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。
- 3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。

【テキスト】

必要に応じ、順次、プリントを配布します。指定しません。

【参考書】

講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

【成績評価方法】

出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。なお、受講者が比較的少数で、ゼミナール型の展開となる場合は、別途判定の基準を設けることとしますが、詳細は開講時に説明します。

欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日までに提出していただきます。万一未提出となった場合は、減点とします。なお、内容に問題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただきます、問題点の指導に当たります。

科目担当者の判断として、レポートの再提出の機会は設けません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待です。

万一、不合格となった場合は、有志の方々のみを対象に、1月に特設講座を開講し、再評価の機会を設けます。ゼミナールか講義に代替する課題に取り組んでいただき、鍛えます。その上でレポートを提出していただき、2月に成果を評価し、合否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。

その他、諸々の詳細は、開講時に説明します。

【その他（メッセージ等）】

気楽、安易、暢気な態度、アンプロフェッショナルな（礼節を欠く、決まりを守れない、迷惑をかける、困難な状況にある人を思いやれない、健康づくりに取り組む姿勢に疑問があるなど、命に向き合う専門職として、他者からの信頼を損なう行為・言説のすべて）態度には厳しく措置します。常に適度な緊張感を携えて授業に出席し、レポート等にも取り組んでください。

本講座は選択科目であるため、開講してみないと受講者数や顔ぶれがわかりません。それによって展開方法も変わってきます。下掲の授業内容は、講義中心の展開となった場合のことを想定してまとめていますので、順番の入れ替えや差し替え、対話型の方法の採用など、多少とも変更になる可能性があることを予めご理解ください。

できれば人間関係について考察する何らかの社会調査にも取り組んでみたいと思います。

選択科目において折々に生じる嫌いがありますが、開講してからの履修放棄は、グループワークの展開に支障を与えるなど、他の履修者の皆さんに大きな迷惑をかけることにもなりますので、2年生以降の履修計画も念頭に置き、しっかりと検討の上、履修するか否かを決めると共に、決めた以上は意欲的に学習してください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	人間関係論の事はじめ —オリエンテーションと 基礎知識の整理—	一定の社会・文化的条件とその下に置かれた人間の心理や行動との相関を考察していくに当たり、最も基本的でたいせつとみられる概念を、話題に即していくつか整理してみたいと思

		います。 あなたはお母さんとお父さんとどちらが一段と好きですか？どうして違いが生じるのだろうか…
第2回	家族の中の人間関係 —亭主関白・友だち夫婦・ かかあ天下の違いはなぜ 起きる？その1—	日本人の社会の本質の一つは、家族本位制であると言われます。家族は日本人が何らかの集団を形成する場合のひな型であるとみられるわけですが、家族という集団の特色を考えてみます。すると、一見、宿命的な関係のように見える各家族員同士の人間関係も、丁寧にみると、つながりの強弱やいずれにイニシアチブがあるかなど、結構違いがあることがわかります。その背景を探ってみたいと思います。
第3回	家族の中の人間関係 —亭主関白、友だち夫婦・ かかあ天下の違いはなぜ 起きる？その2—	第2回の続きを講じます。
第4回	家族の中の人間関係 —亭主関白、友だち夫婦・ かかあ天下の違いはなぜ 起きる？その3—	第3回の続きを講じます。
第5回	子どもの育て方の違いと 育ち方の違い —子どもの社会化と文化 の相関・その1—	子どもの育ちは親や社会のあり方や関わり方から大きな影響を受けると言われています。日本人の子どもたちはどんな時期にどのような人間関係を経験し、社会化するのでしょうか。それは他の民族にも当てはまることでしょうか。考えてみたいと思います。
第6回	子どもの育て方の違いと 育ち方の違い —子どもの社会化と文化 の相関・その2—	第4回の続きを講じます。
第7回	子どもの発達を促す人間 関係・その1	未来の担い手である子どもたちが健やかに育つ上でも、人間関係は重大な役割を担っています。どのような質を伴った子どもと大人との人間関係が、子どもの発達を促すのか。それを保障されることが子どもの権利の確信であると

		も言われます。どういうことなのか、お話をしたいと思います。
第8回	子どもの発達を促す人間関係・その2	第6回の続きを講じます。
第9回	人間関係づくりの不思議—偏見や差別はどのように生じるのだろうか？その1—	人間関係は、仲睦まじく深められていくとは限りません。人間関係づくりがうまく進まなくなったり、逆に壊れていく場合もあります。そこにはどんなからくりが潜んでいるのでしょうか。考えてみたいと思います。
第10回	人間関係づくりの不思議—偏見や差別はどのように生じるのだろうか？その2—、並びに、オリエンテーション	第7回の続きを講じます。 人間関係の特色を捉える社会調査の概要を紹介すると共に、方法を指導します。
第11回	日本人の人間関係の特色・その1—東日本と西日本に違いはあるか？前編—	しばしば東日本と西日本の文化の違いが話題になりますが、人間関係なり、その網の目である社会のあり方にもそうした違いを見出すことはできるのでしょうか。違いあがるとしたら、それを生み出しているものは何なのでしょう。あなたは、県民性はあると思いますか？
第12回	日本人の人間関係の特色・その1—東日本と西日本に違いはあるか？後編—	第11回の続きを講じます。
第13回	日本人の人間関係の特色・その2—日本人の人間関係づくりに特色を与えているもの・前編—	学史を振り返ってみると、様々な日本人論が、今回の項目のことを扱ってきました。「恩」、「義理」、「人情」、「甘え」、「仲間意識」 etc など、有名なキーワードも多々生まれました。ことわざにも人間関係に関わるものが様々あります。例えば、そうしたものに注目すると、どんなことがみえてくるのでしょうか？考えてみよう。
第14回	日本人の人間関係の特色・その2—日本人の人間関係づくりに特色を与えているもの・後編—	第13回の続きを講じます。

第15回	オリエンテーション	レポートの課題を発表し、データ分析の方法とグループワークの進め方を指導します。
------	-----------	---

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 人間の理解を深める
科目名： 女性学
(英語名称： Women' s Studies)

【担当教員】 高橋 準

【開講年次】 1年次 【学期】 集中講義 【必修/選択】 選択

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

わたしたちは、自分が「女性であること」「男性であること」を、この二分法も含めて、固定的で本質的なものとして、疑いをさしはさまないことが多い。しかし実際は、ひとが女性もしくは男性になる／であるためには、発生学的にはもちろん、制度的にも社会的にも、さまざまなプロセスを経る必要がある。

本講義では、〈性〉を構成する要素について知るとともに、わたしたちが性別を持つ存在であることで受けるさまざまな制約と、豊かな可能性について検討する。その際、知識を身につけるとともに、問題を発見し、考察する力を養うことを目指す。

【学習目標】

- 1) 〈性〉を構成する諸相について知る。
- 2) 地域社会・文化の中の〈性〉の諸相と、関連する社会問題について理解する。
- 3) 日常的に触れる機会があるメディア表象等を批判的に解釈できる。
- 4) 将来の職業経験の中で、〈性〉とその多様性をどのように位置づけるかを考える。

【テキスト】

高橋準、『ジェンダー学への道案内（四訂版）』、北樹出版、2014年。

【参考書】

適宜、講義内で紹介します。

【成績評価方法】

リアクションペーパー、最終コマに実施する試験を総合して判断する。

【その他（メッセージ等）】

テキストにはあらかじめ目を通しておいてください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	イントロダクション	身体性
第2回	ジェンダーの概念	ジェンダー/セクシュアリティ
第3回	ジェンダーと性差別	セクシズム/ジェンダリズム、労働
第4回	言語とジェンダー	性別冠詞、ステレオタイプ
第5回	メディアとジェンダー	マスメディア
第6回	地域社会とジェンダー(1)	家父長制
第7回	地域社会とジェンダー(2)	地域社会、ホモソーシャル
第8回	地域社会とジェンダー(3)	社会関係資本
第9回	家族とジェンダー(1)	近代家族
第10回	家族とジェンダー(2)	親密性
第11回	災害とジェンダー(1)	災害脆弱性
第12回	災害とジェンダー(2)	ジェンダーセンシティブな災害支援
第13回	多様な〈性〉(1)	性的指向、性同一性
第14回	多様な〈性〉(2)	〈性〉とリスク
第15回	まとめ	医療・看護と〈性〉

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	習得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	習得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 倫理性を高める

科 目 名： 倫理学

(英語名称： Ethics)

【担当教員】 戸田 聡一郎

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

1. 古来、「いかに生きるべきか」という道徳の問いは人間の最も基本的な関心事のひとつであった。しかし一方で、世界中の人々が「善く」生きれば、「倫理」などいらないのではないだろうか。倫理学はこれらの問いを哲学的な議論の土俵で取り扱おうとする。この授業では、各人がみずから主体的に道徳上の問題を考えるにあたって、その公共的な基盤となるべきものを提供する。公共哲学を扱う「サンデル」ブームが一段落した現在、私たちに残された課題は何か。その残された課題についてともに議論していきたい。

2. この授業では、人間と社会との関わりの中で生じる様々な倫理的諸理論を取り扱いながら、おもに欧米の倫理学が道徳的「規範」の本質についてどのように考えてきたのかを学ぶ。また、そもそも「善い」ということはどのような状態を指すのだろうか。そのような「メタ的な」俯瞰を行いながら(メタ倫理学)、倫理を現実世界にどのように応用すれば良いのかについてもともに考えていきたい。

【学習目標】

《一般目標》

道徳的な問題について、人はしばしば自分なりの直観的解答をもっている。ところが、その答に対する素朴な信頼が揺らぐことがあって、その時人は自分の考えを反省的に考え直すようになる。「どうして自分はそう思うのか」、その理由をはっきりさせようとすることで、「自分の頭で考える」ことが始まるのである。倫理学とは日常的な道徳的観念に対するそうした批判的反省である。「当たり前だと思ふことを考え直す」という問題意識に触れることで、倫理的な思索態度を身につけたい。

《行動目標》

- 1 倫理理論のオーバービュー：規範と価値
 - (1) 倫理学とは何をする学問なのかが言える。
 - (2) 倫理理論を類型化すれば、どのような概観になるかが整理できる。
- 2 義務論的な倫理学——カント倫理学
 - (1) カントが何をもって道徳的行為の特質とみなしたか言える。
 - (2) 規則の普遍化可能性が行為の道徳的評価基準としてどこまで有効か考えられる。
 - (3) カント倫理学で幸福の問題が最終的にいかなる形で処理されているか言える。
- 3 帰結（結果）主義的な倫理学——功利主義
 - (1) 功利主義の基本的主張が何であるか言える。
 - (2) ベンサムやミルがいかなる問題意識から功利主義を立てたのか言える。
 - (3) 行為／規則功利主義の区別が説明できる。
 - (4) 功利主義にも様々な問題点が潜んでいることが判る。
- 4 社会倫理の基底——正義と利益
 - (1) 正義の中核的観念が何であるか言える。
 - (2) 社会契約の核心的主張が何であるか言える。
 - (3) 人間が社会を組織して生きることの意味について、自分なりに考えられる。
 - (4) 障がいと正義の関係について考え、自分なりの主張ができるようになる。
- 5 メタ倫理学——結局「善い」とはどういうことなのか
 - (1) メタ倫理学の目指すところと言える。「自然主義的誤謬」とは何かが説明できる。
 - (2) メタ倫理学がどのように展開していったのか。自然主義、直観主義、情動主義、指令主義の概略を説明できるようになる。

【テキスト】

特定の教科書は用いないが、授業の際に適宜資料を配付するとともに、その都度参考文献の紹介に努めたい。

【参考書】

バジューニ、フォスル／長滝、廣瀬（訳）『倫理学の工具箱』共立出版、2012年

【成績評価方法】

授業への出席状況に加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験を学期末に課す。

【その他（メッセージ等）】

哲学・倫理学は対話の学問です。対話するには前提条件の共有が不可欠です。この授業では、その前提知識を提供し、議論の場を設けます。学生の皆さんも積極的に授

業に参加されることを期待します。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	導入(倫理「学」とは何か)	日常道徳とその反省(授業計画)
第2回	倫理理論の見取り図	義務論と帰結主義
第3回	義務論的倫理学(1)	幸福と道徳(幸福は道徳の原理になるか)
第4回	義務論的倫理学(2)	道徳的行為と道徳的原理(結果への顧慮と道徳性)
第5回	義務論的倫理学(3)	規則の普遍化可能性(普遍化可能な行為とはどういう行為か)
第6回	義務論的倫理学(4)	人間の価値と自由(人格の尊厳と社会正義)
第7回	功利主義の倫理学(1)	幸福と功利性(その概略、利己主義と功利主義)
第8回	功利主義の倫理学(2)	功利主義の思想家たち(ベンサム、J. S. ミル)
第9回	功利主義の倫理学(3)	功利主義の諸相(行為/規則功利主義、功利主義の正当化)
第10回	功利主義の倫理学(4)	功利主義の問題点(人間的側面の軽視など)
第11回	社会倫理の基底(1)	「正義」とは何か
第12回	社会倫理の基底(2)	正義が先か、善が先か
第13回	社会倫理の基底(3)	障がい者と正義
第14回	メタ倫理学(1)	メタ倫理学の概観(「善い」「正しい」とは何か)
第15回	メタ倫理学(2)	メタ倫理学の展開(「倫理に答えがない」理由)

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	議論に参加することで修得の機会を得、他者の議論を尊重しながら自説を展開できることが要件の一つになる。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)			
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示し、議論に参加することが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区 分 名： 倫理性を高める

科 目 名： 生命倫理

(英語名称： Bioethics)

【担当教員】 太田 操

【開講年次】 1年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

生命倫理は、生命科学や医療分野において、道徳的価値や原理に照らして人間と人間・自然・環境・社会との関係を体系的に探求する学問である。医療現場の倫理的事例から「生」とは、「死」とは、「生命」とは何かという根源的な問いを探求する。

【学習目標】

- 1) 生命倫理を学ぶ意義について説明できる。
- 2) 医療現場で直面する倫理問題を説明できる。
- 3) 自己を含めた各々の価値観の多様性を理解できる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価方法】

授業への参加度と期末レポートにより評価する。

【その他（メッセージ等）】

各回のテーマは、1つの正解が出るものではない。柔軟な思考や発想と積極的な参加を期待する。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	生命倫理とは	生命倫理誕生の背景、学習の意義
第2回	倫理に関する基本理念(1)	生命倫理の視点からの医療の構造 倫理原則、正義について、自己決定に関する議論
第3回	倫理に関する基本理念(2)	
第4回	生命倫理の課題(1)	いのちの始まりに関する生命倫理、生殖技術・人工妊娠中絶等
第5回	生命倫理の課題(2)	
第6回	生命倫理の課題(3)	
第7回	生命倫理の課題(4)	治療の選択、死の定義等
第8回	生命倫理の課題(5)	
第9回	生命倫理の課題(6)	
第10回	生命倫理の課題(7)	医療の現場から-臓器移植、脳死等に関連して-
第11回	生命倫理の課題(8)	
第12回	生命倫理の課題(9)	
第13回	ディベート	
第14回	ディベート	
第15回	まとめ	生命倫理における看護の責任-倫理的機能、倫理的場面における看護師の役割

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区分名： 論理的思考力を培う

科目名： 統計学

(英語名称： Biostatistics)

【担当教員】 安部 猛

【開講年次】 1年次 【学期】 後期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

統計学の講義は、疫学（2年前期）および情報学演習（2年後期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。

統計学の講義では、データを収集する調査デザインと、収集したデータを分析し提示、さらには結果を読み取るための基礎的な知識を学びます。統計学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

【学習目標】

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための基礎的な知識と技術を身につける。

具体的目標

- 1) 統計学と確率論の概要を理解する。
- 2) 記述統計と推測統計について概説できる。
- 3) 変数（尺度）の違いを説明できる。
- 4) 代表値・散らばりの指標について説明できる。
- 5) 相関と回帰について説明できる。
- 6) 仮説検定の考え方を理解する。
- 7) 二群間比較で必要な検定について説明できる。
- 8) 変数の種類に応じた図表のタイプについて説明できる。
- 9) 主な研究デザインについて概説できる。
- 10) 観察研究の解析で使用される統計量を理解する。

【テキスト】

縣 俊彦. やさしい保健統計学 改訂第5版増補. 南江堂.

【参考書】

なし

【成績評価方法】

試験（70%）と出席・提出物（30%）により総合的に評価します。

【その他（メッセージ等）】

毎回、演習問題を中心に進めますので、学内ネットワークに接続可能な PC もしくはタブレットを持参してください。表計算ソフト（例：Windows/Mac: Excel, Mac: Numbers）を頻繁に使用します。端末に内蔵されていなくても追加購入は必要ありません。講義開始以降、説明いたします。

【授業内容(学習項目)】

※3 時間分を 1 回とする。(計 30 時間)

回数	項目	内容（キーワード等）
1 回	統計学・確率論の概要	確率：数値と実際、記述統計・推測統計
2 回	変数（尺度）と図表	尺度、連続変数、カテゴリ変数、表、グラフ
3 回	代表値・散らばりの指標	平均値、中央値、最頻値、標準偏差、四分位範囲
4 回	相関と回帰 (1)	相関係数、回帰直線（関数機能）
5 回	相関と回帰 (2)	相関係数、回帰直線（作図機能）
6 回	仮説検定 (1)	帰無仮説、対立仮説、P 値、95%信頼区間
7 回	仮説検定 (2)	t 検定、 χ^2 検定、結果、解釈
8 回	研究デザイン	介入研究、観察研究、横断研究、コホート研究、症例対照研究
9 回	医療情報学	個人情報、電子カルテの 3 原則、レセプト、ICD-10
10 回	演習・復習	総括

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	データを扱う基礎的知識について教授する。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	○	論理的思考能力としてデー

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		データを収集・分析・解釈する基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	健康に関するデータを収集・分析・解釈する基礎的知識と技術を身に付けること
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		<p>③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。</p> <p>④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。</p> <p>⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。</p> <p>⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。</p> <p>⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。</p> <p>⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。</p>		が単位認定の要件である。
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	<p>① 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。</p> <p>② 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。</p>	—	修得の機会がない。
2)	福島の災害から学ぶ	<p>① 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。</p> <p>② 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。</p> <p>③ 放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス</p>	△	グループ演習を通じて習得の機会があるが、単位認定に関係ない。

			コミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	● 健康に関するデータを収集・分析・解釈する基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

区分名： 論理的思考力を培う
科目名： 自然科学（生物学）
（英語名称： Natural Sciences (Biology) ）

【担当教員】 松岡 有樹，五十嵐 城太郎，西山 学即

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 3単位 【時間数】 23時間／45時間

【概要】

多様な生命現象の根底に存在する共通原理について、物質・エネルギー・情報の3つの観点から学習することによって、生命科学の基礎を統一的に理解する。

【学習目標】

(1)生命の多様性と共通性について概説できる。(2)原核生物と真核生物の特徴を説明できる。(3)種々の細胞小器官の構造と機能について説明できる。(4)細胞の観察法を理解し、その全体像を図示できる。(5)体細胞分裂および減数分裂の過程を図示し、説明できる。(6)生殖の方法と遺伝的多様性について説明できる。(7)染色体の構造と機能を概説し、その挙動について説明できる。(8)DNAの複製、転写の仕組みとタンパク質の合成が説明できる。(9)糖、タンパク質、脂質、核酸の性質・代謝について概説できる。(10)ヘモグロビンの酸素解離曲線について概説できる。(11)酵素の構造と機能について説明できる。(12)酸化的リン酸化によるATPの産生及びATPの加水分解に伴うエネルギーの放出を説明できる。(13)恒常性の維持について説明できる。(14)生体防御についてその機構を理解し、説明できる。(15)生命の多様性について進化の観点から説明ができる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

Urry, L. A.ほか (2018) 『キャンベル生物学 原書11版』丸善出版
Alberts, B.ほか (2021) 『Essential 細胞生物学 原書第5版』南江堂
木下勉ほか (2015) 『ZEROからの生命科学 改訂4版』南山堂

【成績評価方法】

出席状況と期末試験および提出物(レポート、スケッチ)により総合判定する。

【その他（メッセージ等）】

生物学は看護学を学ぶ上でもっとも重要な基礎となります。皆さんの積極的な参加を期待します。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目(担当)	内容(キーワード等)
第1回	生物学概論(松岡)	生命とは何か, 多様性と共通性
第2回	細胞・組織・器官(松岡)	細胞小器官
第3回	細胞分裂1(西山)	体細胞分裂
第4回	細胞分裂2(西山)	減数分裂, 精子形成, 卵形成
第5回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の精巣の構造と機能
第6回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の卵巣の構造と機能
第7回	細胞の構造と機能(西山)	細胞膜, 浸透圧
第8回	受精と発生(西山)	初期発生, 器官形成
第9回	恒常性1(西山)	ホルモン
第10回	恒常性2(西山)	自律神経
第11回	免疫1(西山)	抗体, 体液性免疫
第12回	免疫2(西山)	細胞性免疫
第13回	生体を構成する物質1(五十嵐)	水, 脂質, 核酸, 炭水化物
第14回	生体を構成する物質2(五十嵐)	タンパク質
第15回	生体エネルギーの生産(五十嵐)	ATP, 糖代謝, 呼吸, 発酵
第16回	生体エネルギーの利用(五十嵐)	筋収縮, 光合成
第17回	遺伝子の本体(五十嵐)	DNA, RNA, 二重らせん
第18回	遺伝子の複製(五十嵐)	複製
第19回	遺伝子の発現(五十嵐)	転写, 翻訳
第20回	酵素反応(五十嵐)	基質特異性, ミカエリス・メンテン式
第21回	酸素運搬タンパク質(松岡)	ヘモグロビン, 酸素解離曲線
第22回	生物の多様性と進化1(松岡)	生物の分類
第23回	生物の多様性と進化2(松岡)	進化論の歴史, 分子進化

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル	
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	● 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	- 習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	- 習得の機会がない
		②	看護の実践	
		③	看護を統合する科目	

区 分 名： 論理的思考力を培う
科 目 名： 自然科学 (物理学)
(英語名称： Natural Science (Physics))

【担当教員】 小澤 亮

【開講年次】 1年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 11時間／45時間

【概要】

(物理学分野) 物理学における原理や法則、力学的な知恵が、より安全で楽な姿勢・動作を可能にするため技術「ボディメカニクス」として、看護の現場で如何に応用されているかを学ぶ。また、液体、圧力、電気、熱、音、光、放射線の基本的性質について広く学び、それらが医療にどう活かされているか理解する。

【学習目標】

(物理学分野)

1. 力とは何か説明できる。
2. 作用・反作用について説明できる。
3. 仕事とエネルギーについて説明できる。
4. 静止摩擦力、動摩擦力について説明できる。
5. トルクについて説明できる。
6. 剛体のつり合いについて説明できる。
7. 安定であるための条件を説明できる。
8. 体位変換の方法を力学的な視点から説明できる。
9. 水中でのリハビリテーションの利点を物理的な視点から説明できる。
10. 圧力について説明できる。
11. 看護に必要な電気の知識を概説できる。
12. 電撃事故について説明できる。
13. 看護における水の特異性について説明できる。
14. ドップラー効果、超音波について説明できる。
15. 光の屈折、全反射について説明できる。
16. 医療に用いられる放射線について説明できる。
17. 半減期について説明できる。

【テキスト】

平田雅子（著） 「基礎科目 物理学」 メヂカルフレンド社

【参考書】

指定しない。

【成績評価方法】

出席、筆記試験により総合的に判定する。

【その他（メッセージ等）】

看護において、物理学の考え方はいろいろな場面で応用されています。「看護師・患者ともに負担を軽減する看護動作はどうしたらよいのか」など、「知識」ではなく、自ら考え柔軟に対応できるような「知恵」を授業の中に見出していただければと思います。また、わからないことがあればいつでも質問に来てください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第24回	体位変換の原理1	力、質量と重さ、重さの単位、力の単位、作用・反作用
第25回	体位変換の原理2	仕事とエネルギー、力学的エネルギー、摩擦力
第26回	倒れない・倒れにくい条件1	トルク、剛体のつり合い
第27回	倒れない・倒れにくい条件2	鉗子・鑷子、体位変換とトルク、重心、安定性
第28回	浮力と流体	アルキメデスの原理、密度、比重、水中でのリハビリテーション
第29回	圧力	気圧、トリチェリーの実験、血圧、ベルヌーイの定理、ポンペ、サイフォン
第30回	看護に必要な電気の知識	電流・電圧・抵抗、直流・交流、電力と電力量、アースとリーク、電撃事故
第31回	看護に役立つ水の特異性	比熱、水の特異性、熱の伝わり方
第32回	音と医療	音波、音の強さと大きさ、ドップラー効果、医療に必要な超音波
第33回	光と医療	光学、屈折、全反射、ファイバースコープ、紫外線、赤外線

第34回	放射線の防護と応用	X線、ラジオアイソトープ、半減期
------	-----------	------------------

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
4. 知識とその応用			
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。			
		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	① 感性を高める科目	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		② 倫理性を高める科目	
		③ 論理的思考能力を高める科目	
		④ 表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		② 人間の理解を深める科目	
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④ 看護の基本となる科目	
		⑤ 看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	— 修得の機会がない
		② 看護の実践	
		③ 看護を統合する科目	

7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

区分名： 論理的思考力を培う
科目名： 自然科学（化学）
（英語名称： Natural Science（Chemistry））

【担当教員】 井田 由美、田辺 真

【開講年次】 1年次 【学期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 3単位 【時間数】 11時間／45時間

【概要】

（化学分野）医療業務に必要な化学の基礎として、医薬品に含まれる化学物質の構造、性質、機能を理解するための基本知識を学ぶ。また、医療分野と化学の関連性についても、具体例を交えて解説する。さらに、熱力学や反応速度論などの基本原理についても学ぶ。

【学習目標】

（化学分野）化学物質の基本的な性質（分子の構造と結合、酸と塩基、緩衝作用、立体化学、生体内での化学反応）に関して、分かり易く説明できる。

【テキスト】

担当教員が講義資料を配布する。

【参考書】

参考書：有本淳一（著）「看護系で役立つ化学の基本 第2版」化学同人、2021年

【成績評価方法】

出席、レポート課題により総合的に評価する。

【その他（メッセージ等）】

受講生の興味や理解度を見ながら講義を進めたいと考えています。化学に関して興味があること、知りたいこと、などを担当教員まで遠慮なくお知らせください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第35回	「原子」のすがた	原子のしくみについて、周期表、電子配置との関連性を含めて説明する。
第36回	「もの」の量	分子量、濃度、物質量などの計算スキルを問題演習から習得する。
第37回	「もの」の成り立ち	原子を結ぶ化学結合を学ぶことで、「もの」の性質を学ぶ。
第38回	放射線への理解	放射線に関する基礎的な知識、人体への影響を概説する。
第39回	「水」のはなし	生命活動を支える「水」の性質(融点、溶解、電解質など)をミクロな視点から解説する。
第40回	からだのなかの「水」	水溶液の性質(酸・塩基の定義、浸透現象、緩衝作用)を解説する。
第41回	「炭素」のはなし	炭化水素、ヘテロ原子(窒素、酸素)を含む有機化合物の構造や反応を学ぶ。
第42回	有機分子の特性	生活に関連した有機分子の材料特性や生体内の高分子について説明する。
第43回	熱力学入門	エネルギー変化と自発変化の原理を学び、反応の進行条件を理解する。
第44回	反応速度論入門	反応速度に影響を与える因子を学び、速度式と反応条件の基礎を理解する。
第45回	まとめ	これまでの重要なテーマを復習し、レポート課題の書き方について説明する。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		せることが単位認定の要件である。
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 論理的思考力を培う

科目名： 数学

(英語名称： Mathematics)

【担当教員】 中村 信裕

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修/選択】 選択

【授業形態】 講義 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

本講義の目的は2つある。1つは必修科目である「統計学」、「医療統計学」への橋渡しである。統計学は看護学にとどまらずあらゆる科学分野の基盤として重要であり、高等学校の課程でも数学Iにおいて「データの分析」、数学Bにおいて「確率分布と統計的な推測」を学ぶことになっている。しかし、「統計的な推測」に関しては入試に課す大学が少ない等の理由で十分な学習がなされていないのが実情と思われる。ここでは、本来高等学校で修習すべき統計学の基礎を学びなおす。

もう一つは数理的、論理的な思考に親しむことである。数学はその概念や論理を明確かつ簡潔に表すため、式や記号が多用される。このため、ややもすると暗記科目として取り組みがちになり、実際そういう学習法で失敗する学生が多い。数式や記号は実際に起こっていることを記述しているだけであり、それらを道具として状況・条件を整理し、組み立てて、筋道を立てて考えるという「論理的思考」こそが重要である。本講義では数学のさまざまなテーマを題材として、なぜ? どうして? と自問しながら、論理的かつ批判的に思考する能力を養う。

【学習目標】

1. 集合・命題論理・述語論理の基本を理解し、論理的に思考できる。
2. 二項定理を理解し活用できる。
3. 極限・微分法を説明できる。
4. 基本的な代表値を理解し、データの分析に活用できる。
5. 相関と回帰について説明できる。
6. 二項分布と正規分布について説明できる。
7. 点推定・区間推定について説明できる。
8. 統計的仮説検定の考え方を説明できる。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

改訂版日本統計学会公式認定 統計検定 3 級対応 データの分析 日本統計学会 編
東京図書

【成績評価方法】

授業の評価は、試験の得点、平常点・レポート評価点で判定される。

【その他（メッセージ等）】

本学部の教育目標のひとつに「さまざまな事象や現象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる」とある。本講義を通してこの目標に一步でも近づいて頂きたい。しかし、そのためには単に講義を聴講するという受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に参加して、数学する（思考する）という態度で講義に臨んで頂きたい。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1～3 回	数学の基礎	集合，命題，論理
第 4～6 回	順列・組み合わせ，二項定理，数列の極限	順列，組み合わせ，二項定理，数列の極限，ネイピア数
第 7～9 回	微分法	関数の極限，導関数，合成関数の微分，指数関数の微分
第 10～12 回	1 変数データの分析	質的変数と量的変数，度数分布表とヒストグラム，代表値
第 13～15 回	2 変数データの分析	相関係数，回帰分析
第 16～18 回	確率	様々な事象の確率，ベイズの定理，独立性
第 19～21 回	確率変数	確率変数，期待値と分散，二項分布，正規分布，
第 22～24 回	正規分布の性質	変数変換公式，中心極限定理
第 25～27 回	推定	点推定，不偏推定量，区間推定
第 28～30 回	仮説検定の基礎	仮説検定，片側検定，両側検定，有意水準，有意確率(P 値)

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定に要件である
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

区 分 名： 感性を高める
科 目 名： 文学
(英語名称： literature)

【担当教員】 澤 正宏

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

日本の近代から現代にかけての文学の流れや、代表的な文学作品(主に小説、詩歌)を学ぶことによって、歴史的・文化的な背景を理解し、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力、感性を養います。また、講義のなかでは、何回かは文学と医学との接点の問題も扱います。

【学習目標】

明治時代以降の文学作品を具体的に理解することで、近代以降の歴史や文化といった時代背景への知識を深めながら、作品の成立事情、構想、芸術性、文化史的な価値などの理解をとおして、文学における深い人間洞察が体得できるようにする。

【テキスト】

指定しない(講義者が作成した資料を使用する)。

【参考書】

講義の都度、提示する。

【成績評価方法】

講義での出席、感想発表、参加態度(意見など)と、前期試験により評価。

【その他(メッセージ等)】

講義への積極的な参加(意見、感想など)を期待する。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	学ぶことの意味 文化の集積
第2回	森鷗外「高瀬舟」	足るを知る 安楽死 オオソリティー
第3回	芥川龍之介「歯車」	芸術至上主義 地獄 関係妄想
第4回	宮澤賢治の童話(1)	「オツベルト象」 労働と救済 怒ることの意味
第5回	宮澤賢治の童話(2)	「なめとこ山の熊」 食物連鎖 生きることと殺生
第6回	萩原朔太郎の詩	近代詩を極めた表現 腐敗感覚と万人の孤独
第7回	金子みすゞの児童詩	「みんなちがってみんないい」とは 仏教的な表現
第8回	近代文学から現代文学	主知主義の文学 労働者の文学 現代都市の出現
第9回	ハンセン病の文学	隔離政策 ワゼクトミー 病気と差別
第10回	中原中也の詩(1)	日本一の「空」の詩人 「空」の表現の本質
第11回	中原中也の詩(2)	詩「ひとつのメルヘン」 極められたダダイズム
第12回	原爆被災の文学	原民喜「鎮魂歌」 原爆を被災した死者への共感
第13回	中城ふみ子の短歌	乳癌で亡くなった女性歌人の歌の特色
第14回	戦後文学(主題など)	戦後社会の二重構造 高度資本主義経済
第15回	『苦海浄土』を読む	日本公害病の原点 日本で最高の小説と評価

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会が無い
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が無い
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区 分 名： 感性を高める
科 目 名： 美術（芸術療法とホスピタル・アート）
（英語名称： Hospital Arts ）

【担当教員】 渡邊 晃一

【開講年次】 1年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

芸術療法やホスピタル・アートの研究が近年、国際的に進んでいます。本講義ではそれら世界的潮流と重ねながら、美術を通じた感性と精神的な豊かさを伝えていきます。美術の講義と実制作を通して楽しく学んでいきます。

【学習目標】

- 1) 授業内容に知的関心をもって、意欲的に取り組むことができる。
- 2) 自らの発想の能力を高め、計画的に創意工夫することができる。
- 3) 美的感性を養い、今日の芸術文化を理解することができる。

【テキスト】

- ・ 渡邊晃一著「モナ・リザの教科書」日本文教出版、2021
- ・ 材料費(500円程度)が必要になります。

【参考書】

- ・ 佐藤優「患者に優しい病院をめざして」九州大学出版会、2006
- ・ 森口ゆたか「病院のアート—医療現場の再生と未来」アートミーツケア学会、2014
- ・ 坂東孝明、深澤直人他著「ホスピタルギャラリー」武蔵野美術大学出版局、2016
- ・ 三木成夫「内臓のはたらきと子どものこころ」築地書館、1995

【成績評価方法】

- ・ 参加態度、成果点：4点満点x15回=60点
- ・ 課題作品による成果点：15点満点x2回=30点
- ・ レポート：10点

【その他（メッセージ等）】

看護と関連する美術、芸術、アートについて幅広く学びます。

「美術」が苦手と思っている方々の受講も歓迎します。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	美術、芸術とは？	「美」と「藝」
第2回	アートと自然	「文明」と「文化」
第3回	芸術療法	「Meditation」と「Relaxation」
第4回	モダンテクニック	生命形象の「らせん」
第5回	季節のカード ①	「色」
第6回	季節のカード ②	「形」
第7回	季節のカード ③	「像」
第8回	鑑賞	「感性」
第9回	鑑賞	「脳」と「心」
第10回	万華鏡①	「芸術」と「科学」
第11回	万華鏡②	「光」
第12回	万華鏡③	「虚像」
第13回	万華鏡④	「Art」と「Design」
第14回	ホスピタル・アート	アルス・メディカ
第15回	鑑賞	「美術」と「医療」

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム		科目達成レベル			
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	身体と生命のもつ主観と客観の関係を考えることができる。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		に示せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	アート作品の個人情報の扱いを遵守する
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践
----	------------	---	---------------------------------------	---	------------

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		できることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサー		

			ビスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 感性を高める
科目名： 音楽
(英語名称： Music)

【担当教員】 高橋 裕之

【開講年次】 1年次 【学 期】 集中 【必修／選択】 選択

【授業形態】 講義・演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

日本において一般的に音楽とされるものは、日本伝統音楽を除けば西洋音楽のシステム（音階や拍節法など）を基盤に成り立っています。小・中学校、高等学校で経験してきた音楽の源流とは何でしょうか。それは西洋（ヨーロッパ）の音楽なのです。皆さんが学んできた学校の音楽室には当たり前のようにピアノがおいてあったでしょう。それがその証拠です。当たり前だと思ふことに疑問を抱いてみると、物事の本質が見えてくることがあります。本講義では、西洋音楽を中心に音楽的知識を深めるとともに、実際にいくつかの楽器を演奏して音楽に親しみます。先ず、名曲と呼ばれる音楽作品の鑑賞を通じて、西洋音楽に対する理解の裾野を広げていきます。

次に、(歌唱)、リコーダー（アンサンブル）、ボディーパーカッションなどの実演を通じて自身で音楽を表現することの喜びを味わいます。

数年前までコロナ禍により、無観客ライブ、ライブ配信コンサートといったように音楽の在り方が劇的に変化しました。そして、日本ではやっと一昨年から、これまでのライブコンサートが戻ってきました。コロナ禍を乗り越えた音楽はこれまでと同じものなのか、それとも何かしら変化が生まれたのでしょうか。こうして、本講義では音楽を中心にしながら様々なことを考えてみる機会になればと思っています。

【学習目標】

一般目標

『感性』とは何でしょうか？音楽に触れることで『感性』を磨くことはできるのでしょうか？本講義を通じてこうした問いに対して音楽を通じて考えていきたいと思ひます。それを探る為に「鑑賞」と「実演」これら二つを柱にして感性を磨いていきましょう。また、音楽をする際に最も重要な『聴く』という行為について考えていきましょう。積極的に音楽を『聴く』。この行為を普段の生活の中で『傾聴』することに応用すれば、コミュニケーションスキルを養うことにも繋がります。

行動目標：1) 音楽的知識や見識を広めることきっかけとして教養を高め、多様な文化を知ることができる。
2) 表現する楽しみを得ることができる。
3) 能動的に音楽を『聴く』ことができる。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。講義中に配布するプリントや楽譜にて。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。参考文献については講義中に指示。

【成績評価方法】

出席、レポートの内容、鑑賞の感想、講義内容の理解と実演への関わり方など総合的に評価する。特にレポートは、レポートの様式としての体裁を整えて提出すること。

【その他（メッセージ等）】

- ①ソプラノ・アルトリコーダーどちらか一方を所持していることが望ましい。
無い方は、初回講義で相談してください。
- ②使用教室やゲストの都合により講義内容が前後することがある。
- ③スマートフォンもしくはタブレット所持者は、リコーダーが出来ない場合、鍵盤アプリをあらかじめダウンロードしておく。講義が近くなったら詳細指示します)

教員から学生へメッセージ：

音楽を楽しみ、共に感性を磨きましょう。音楽が好きという気持ちがあれば実技が苦手な人でも歓迎します。（使用教室の都合などにより内容が前後する場合があります。その場合、予め連絡します。）

【授業内容(学習項目)】

夏期 集中講義で3日間（1日5コマ）

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	ガイダンス 音楽＝西洋音楽？	講義の進め方 評価方法 日本における音楽とは？
第2-3回	西洋音楽とは？～名曲とともに歴史を辿る～【講義・鑑賞】	クラシック音楽の魅力や黒歴史？を知る クラシック音楽がポピュラー音楽にもたらした もの
第4回	リコーダー アンサンブル(1)	様々な楽曲を演奏してみる 表現とは 言葉とメロディ 歌詞
第5回	ハンドベル(1)	ハンドベルを楽しもう 和音
第6-7回	オペラ(1)～オペラを楽しむ～【鑑賞】	オペラの歴史と魅力について オペラ制作を通じて組織について考える
第8回	ボディーパーカッション(1)	ボディーパーカッションを楽しもう
第9-10回	オペラ(2)～オペレッタを楽しむ～【鑑賞】	オペレッタの魅力について
第11-12回	オペラ(2)～オペレッタを楽しむ～【鑑賞】	オペレッタの魅力について
第13-14回	アンサンブル フラッシュモブの実験をしてみよう	リコーダー、ハンドベル、(ボディーパーカッション)を駆使して一つの作品を作り上げよう。 ミニコンサート コロナ禍の表現者の色々
第15回	本当に音楽には国境がないのか？	西洋音楽という視点から異文化理解について考える

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	修得の機会がない
		③	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		④	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		⑤	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、収監、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑥	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		①	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 感性を高める

科 目 名： 体育1

(英語名称： Physical Education 1)

【担当教員】 松本 健太

【開講年次】 1年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間(1コマ90分)

【概要】

身体組成測定、運動時の心拍数測定を行い、演習をとおして自己の健康維持増進に関する知識を理解する。また、実際に様々なスポーツ種目を行い体力の向上に努める。

【学習目標】

- 1) 各種測定結果をもとに、自分の体の状態について理解を深める。
- 2) 各種スポーツに積極的に取り組むことができる。
- 3) 仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることができる。
- 4) 運動の楽しさや意義について理解を深める。

【テキスト】

使用しない。

【参考書】

必要に応じ授業の中で提示する。

【成績評価方法】

- 1) 一定の出席時数を満たした者に対し、授業への参加姿勢、態度などにより総合的に評価する。
- 2) 4/5以上の出席を、評価の対象とする。

【その他(メッセージ等)】

授業に積極的に参加し、実際に体を動かしながら運動と健康について理解を深めていくことが大切です。また、体調管理・怪我など十分に気をつけること。水分補給(水・スポーツドリンクなど)は各自で準備し持参すること。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	心拍数&身体組成測定	運動中の心拍数、身体組成の測定
第2回	①テニス②バスケットボール	基本練習、ゲーム
第3回	①バスケットボール②テニス	基本練習、ゲーム
第4回	①サッカー②バトミントン	基本練習、ゲーム
第5回	①バトミントン②サッカー	基本練習、ゲーム
第6回	①ソフトボール②卓球	基本練習、ゲーム
第7回	①卓球②ソフトボール	基本練習、ゲーム
第8回	①体づくり運動②バレーボール	基本練習、ゲーム
第9回	①バレーボール②体づくり運動	基本練習、ゲーム
第10回	身体組成測定&フィードバック	身体組成測定を行った後、教室に移動し、心拍数測定と合わせて演習を行う。

*天候などにより授業内容が前後する場合があります

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	同上
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区分名： 感性を高める
科目名： 体育Ⅱ
(英語名称： Physical EducationⅡ)

【担当教員】 杉浦 弘一

【開講年次】 1年次 【学 期】 集中 【必修／選択】 選択

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

運動（スポーツ）やトレーニングは適切に行えば身体に良い影響をもたらすが、不適切な方法で行えば悪影響を及ぼすこともある。本講義では、運動（スポーツ）を行っている時に身体でどのようなことが起きているのか、運動（スポーツ）をどのように実践していけばいいのかなど、運動が身体に及ぼす効果（影響）や運動の方法について概説する。

【学習目標】

- ・人間が運動やスポーツを実践することができる仕組みについて理解するとともに、運動やスポーツが身体に与える効果（影響）について理解できる。
- ・運動（スポーツ）や身体活動がもたらすメリット・デメリットを理解し、運動を実践する基礎的知識を身につけることができる。

【テキスト】

指定しない（必要な資料は授業時に配布する）

【参考書】

「運動生理学」「スポーツ医学」関係の書籍など

【成績評価方法】

筆記試験、授業への取り組みなどにより総合的に評価する。

【その他（メッセージ等）】

授業への積極的な参加を必須とします。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	運動が身体に及ぼす影響①	総論(健康、体力、加齢変化、寿命)
第2回	運動が身体に及ぼす影響②	各論(筋肉、呼吸・循環、代謝)
第3回	運動プログラムの基本的原理・原則①	筋肉の収縮
第4回	運動プログラムの基本的原理・原則②	エネルギー代謝、循環機能
第5回	運動プログラムの基本的原理・原則③	運動の効果を得るための原則
第6回	運動プログラムの基本的原理・原則④	運動プログラムの立て方
第7回	運動プログラムの基本的原理・原則⑤	ウォーミングアップとクーリングダウン
第8回	暑熱環境下での運動と水分補給①	熱中症と運動
第9回	暑熱環境下での運動と水分補給②	水分補給
第10回	運動と疲労・疲労回復①	疲労のメカニズム
第11回	運動と疲労・疲労回復②	疲労回復
第12回	体格と運動処方①	体格の評価
第13回	体格と運動処方②	体格と運動
第14回	運動と生体防御機構	運動と免疫
第15回	全体のまとめ	全体の振り返りと確認

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	習得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	③	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	習得の機会が無い
		④	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 社会の理解を深める

科 目 名： 社会と医療・福祉・保健

(英語名称： Society, health care, welfare and health)

【担当教員】 松本 喜一

【開講年次】 1年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

社会福祉の基本は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題に対し、国民の生活と健康を保証するための支援と指示にあたることである。本講では社会福祉の原理・原則・体制などの社会福祉原論と様々な福祉制度・システムを学びます。

【学習目標】

- 1) 社会福祉の理念と基礎知識や制度的知識を習得する。
- 2) 社会福祉を推進させるための資源や様々な連携を理解する。
- 3) 生活者の福祉問題の現状と課題を理解する。
- 4) 社会福祉に関する事項を的確に整理することができ、自分なりの見解を記述することができる。

【テキスト】

社会保障入門編集委員会編「社会保障入門2025」

中央法規出版

【参考書】

適時指示する。

【成績評価方法】

具体的知識を問う小テスト（2回）と、期末レポート試験（約600字×2問）により評価します。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	社会福祉の意味と概念	地域社会での福祉課題と生存権、幸福追求権 等 地域共生社会の実現の実現に向けて
第2回	現代の社会福祉の動向と課題	少子高齢化・生活困窮、虐待・偏見・差別等における権利擁護 等
第3回	介護保険	介護保険制度の背景・概要・課題と展望
第4回	所得保障1	所得保障の仕組み
第5回	所得保障2	年金制度
第6回	所得保障3	社会手当・労働保険制度
第7回	公的扶助1	貧困・低所得世帯問題と公的扶助
第8回	公的扶助2	生活保護制度の仕組み
第9回	公的扶助3	生活保護制度の実態
第10回	公的扶助4	低所得世帯者の対策
第11回	公的扶助5	生活福祉資金制度について
第12回	公的扶助6	生活困窮者対策等 近年の動向
第13回	社会福祉の分野とサービス1	高齢者福祉1
第14回	社会福祉の分野とサービス1	高齢者福祉2
第15回	社会福祉の分野とサービス1	高齢者福祉3 虐待事例等
第16回	社会福祉の分野とサービス2	障害者福祉1
第17回	社会福祉の分野とサービス2	障害者福祉2
第18回	社会福祉の分野とサービス2	障害者福祉3 虐待事例等
第19回	社会福祉の分野とサービス3	児童家庭福祉1
第20回	社会福祉の分野とサービス3	児童家庭福祉2
第21回	社会福祉の分野とサービス3	児童家庭福祉3 児童虐待、DV等
第22回	社会福祉実践と医療・看護1	ソーシャルワークとは
第23回	社会福祉実践と医療・看護1	個別・集団援助技術
第24回	社会福祉実践と医療・看護1	関連援助技術と検討課題
第25回	社会福祉実践と医療・看護2	チームワーク、連携の重要性
第26回	社会福祉実践と医療・看護2	福祉実践と医療・看護の連携の実態
第27回	社会福祉実践と医療・看護2	具体的な場面での連携
第28回	社会福祉の歴史1	社会福祉史の枠組み
第29回	社会福祉の歴史2	全近代・近代の諸相
第30回	後期のまとめ	

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）					
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区 分 名： 社会の理解を深める

科 目 名： 行政と医療・福祉・保健

(英語名称： Administration, health care, welfare and health)

【担当教員】 松本 喜一

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

行政が行う、基本的な社会福祉の制度を分野ごとに学ぶ。また、各分野での医療保険関連事業を学ぶ。

【学習目標】

- 1) 社会福祉の大枠を理解する。
- 2) 社会福祉の行政機能を理解する。
- 3) 行政政策・制度を地域として習得する。
- 4) 医療保険と福祉制度との総合化を理解する。

【テキスト】

社会保障入門編集委員会編「社会保障入門2025」
中央法規出版

【参考書】

適時指示する。

【成績評価方法】

具体的知識を問う小テスト（1回）と、期末レポート試験（約800字）により評価します。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	社会保障制度の概要1	国民生活と社会保障
第2回	社会保障制度の概要2	制度の変遷1
第3回	社会保障制度の概要3	制度の変遷2

第4回	社会保障制度の法体系	行政と社会福祉6法
第5回	社会保障制度の法体系	行政と社会保険5法
第6回	社会保障の環境1	少子高齢化社会
第7回	社会保障の環境2	世帯、地域・生活の構造
第8回	社会保障給付と負担1	応益負担と応能負担、負担の原則
第9回	社会保障給付と負担2	全世代型社会保障 行政の役割と責任
第10回	社会保障制度の課題	医療、年金、子育て、教育等の課題
第11回	医療保障1	医療保障制度の構造と体系
第12回	医療保障2	保険制度
第13回	医療保障3	高齢者医療制度
第14回	医療保障4	保険診療のしくみ
第15回	医療保障5	公費負担医療・国民医療費

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	△ 修得の機会があるが、単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 ② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 ③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	— 修得の機会がない
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△ 修得の機会があるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)					
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 社会の理解を深める

科目名： 社会と法(日本国憲法を含む)

(英語名称： Society and Law :Japanese Constitutional Law)

【担当教員】 藤野 美都子

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修/選択】 選択

【授業形態】 講義 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

※養護教諭2種免許取得を希望している学生は必ず選択してください。

憲法は、人々の基本的人権を保障するため、権力担当者が権力を濫用し、人々の基本的人権を侵害することがないように権力を規制するものである。本講義では、日本国憲法を対象とし、憲法が保障する基本的人権および人権を保障するための枠組みについて学ぶ。さらに、具体的な事例を通して、憲法が守られ人権が保障されているか否かについて、受講生自らが考える機会を設けたい。

【学習目標】

一般目標

- 1) 法的な物の見方（リーガル・マインド）および法を知り使いこなす力（リーガル・リテラシー）を身につける。
- 2) 憲法学を通して社会に対する理解を深め、能動的市民としての力を身につける。

行動目標

- 1) 憲法とは何かについて理解する。
- 2) 日本国憲法の人権保障システムについて説明できる。
- 3) 実社会において、基本的人権が保障されているか否か判断できる。
- 4) 基本的人権が侵害されている場合の権利救済方法について説明できる。
- 5) 日本の統治機構について説明できる。

【テキスト】

使用しない。

ただし、日本国憲法の条文を準備すること（入手方法については、開講時に説明する。）

【参考書】

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第8版）』岩波書店・2023年
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』有斐閣・2019年

【成績評価方法】

授業への参画態度（コメントペーパーによる評価）50点および提出課題の評価50点（小課題20点と判例研究30点）を予定している。

ただし、開講時に受講生と相談の上、最終的に決定する。

【その他（メッセージ等）】

資料や映像を使い、一定の知識を共有した後、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、憲法を学ぶ上で、社会に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて日々情報を収集し、社会に関する理解を深めていただくことを期待します。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	講義案内 憲法とは何か	講義案内 ハンセン病隔離政策を手掛かりとして
第2回	憲法の誕生①	日本国憲法の制定過程①
第3回	憲法の誕生②	日本国憲法の制定過程②
第4回	日常生活と憲法①	新型コロナウイルス感染症対策
第5回	国民主権と象徴天皇制①	天皇の退位
第6回	国民主権と象徴天皇制②	女性天皇
第7回	平和主義①	9条と安全保障関連法
第8回	平和主義②	平和構築に対する国際貢献
第9回	人権の享有主体	外国人の基本的な人権の保障
第10回	自己決定権①	生殖補助医療の規制
第11回	自己決定権②	信仰を理由とする輸血拒否
第12回	幸福追求権	旧優生保護法最高裁違憲判決について考える
第13回	日常生活と憲法②	夫婦同氏の原則
第14回	法の下での平等①	女性差別撤廃条約と日本の男女平等
第15回	法の下での平等②	男女平等を実現するためのポジティブ・アクション
第16回	表現の自由	ヘイトスピーチの規制
第17回	人身の自由①	被疑者・被告人の権利と被害者の権利

第18回	人身の自由②	死刑廃止条約と日本の死刑制度
第19回	婚姻の自由	同性婚
第20回	生存権	日本の貧困問題と社会保障制度
第21回	日常生活と憲法③	エネルギー政策と原子力発電
第22回	労働権	労働時間規制と過労死問題
第23回	裁判を受ける権利①	映画「フィラデルフィア」を観る
第24回	裁判を受ける権利②	「自らの権利を守る」ことを考える
第25回	選挙権の平等	投票価値の平等
第26回	内閣	国家緊急権
第27回	裁判所	司法制度改革と裁判員制度
第28回	財政	日本の財政について考える
第29回	地方自治	沖縄普天間基地の移設
第30回	憲法改正	憲法改正問題について受講生全員で考える

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要

				件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	● 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	● 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	— 修得の機会がない。
		②	看護の実践	

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		
--	-------------	---	-----------	--	--

区 分 名： 人体の身体機能と病態を理解する
科 目 名： 人体解剖生理学 I
(英語名称： Human anatomy and physiology I)

【担当教員】 太田 昌一郎、永福 智志 (医学部)、浄土 英一 (医学部)、
高橋 和巳 (医学部)、勝田 新一郎

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

正常な人体の構造と機能を理解する。

【学習目標】

- ① 人体の基本構造を理解する。
- ② 骨の構造と機能を理解する。
- ③ 骨格筋の構造と機能を理解する。
- ④ 神経系の構造と機能を理解する。
- ⑤ 心臓の構造と機能を理解する。
- ⑥ 血管の構造と機能を理解する。
- ⑦ 呼吸器の構造と機能を理解する。

【テキスト】

系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院
医療系学生のための解剖見学実習ノート 丸善

【参考書】

講義中に提示する。

【成績評価方法】

試験期間中に実施する筆記試験で評価するが、出席回数も加味して成績判定を行う。

【その他 (メッセージ等)】

講義の進め方は内容が前後することがある。後学期に組織学とともに前学期内容の復習も行う。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	生命の定義とその形	遺伝子、細胞、核、細胞内小器官、細胞膜
第2回	水、細胞膜	水素結合、イオン、チャネル、静止膜電位
第3回	細胞、組織、器官	細胞の構造、細胞間質
第4回	人体の基本構成と名称	正中線、矢状面、頭頸部、体幹、四肢
第5回	骨組織	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨単位、骨形成
第6回	骨格系	頭蓋骨、体幹骨、四肢骨、関節、靭帯
第7回	筋組織	筋細胞、収縮タンパク質、神経-筋連関
第8回	骨格筋系	頭頸部の筋、体幹の筋、四肢の筋
第9回	体液	細胞内液、細胞外液、体腔液、リンパ液
第10回	血液	血球、血漿、血液凝固、血液型
第11回	循環器の構造	心臓、大循環系、微小循環系
第12回	循環器の機能	心機能曲線、左室圧容量曲線、心電図
第13回	呼吸器系	鼻、喉頭、気管、気管支、肺、気道、呼吸部
第14回	神経系の構造と機能①	末梢神経、自律神経
第15回	神経系の構造と機能②	中枢神経、情動行動、視覚、聴覚、平衡感覚

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
4. 知識とその応用			
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。			
		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	① 感性を高める科目	— 修得の機会がない
		② 倫理性を高める科目	
		③ 論理的思考能力を高める科目	
		④ 表現力を培う科目	

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区分名： 人体の身体機能と病態を理解する
科目名： 人体解剖生理学Ⅱ
(英語名称： Human anatomy and physiologyⅡ)

【担当教員】 太田 昌一郎、勝田 新一郎

【開講年次】 1年次 【学期】 後期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

正常な人体の構造と機能を理解する。

【学習目標】

- ① 腎臓の構造と機能を理解する。
- ② 下部尿路系の構造と機能を理解する。
- ③ 消化管の構造と機能を理解する。
- ④ 肝胆膵の構造と機能を理解する。
- ⑤ 内分泌系を理解する。
- ⑥ 生殖器系の構造と機能を理解する。
- ⑦ 人体発生の知識を理解する。
- ⑧ 痛みに関わる生理学

【テキスト】

系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

【参考書】

講義中に提示する。

【成績評価方法】

試験期間中に実施する筆記試験で評価するが、出席回数も加味して成績判定を行う。

【その他（メッセージ等）】

講義の進め方は内容が前後することがある。前学期で実施できなかった内容を実施することがある。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	尿と排泄①	腎臓、腎機能
第2回	尿と排泄②	尿管、膀胱、尿道、排尿機構

第3回	消化管の構造と機能①	上部消化管、消化とは
第4回	消化管の構造と機能②	下部消化管、吸収、排便の生理
第5回	肝臓	構造と生理、蛋白合成、糖代謝
第6回	恒常性調節1	自律神経、交感神経系、副交感神経系
第7回	恒常性調節2	内分泌系、視床下部-下垂体-副腎系
第8回	恒常性調節3	代謝調節、体温
第9回	痛みの生理	触覚、圧覚、温覚、冷覚、痛覚
第10回	視覚と聴覚	目の構造、中耳、内耳の構造、平衡感覚など
第11回	生殖	生殖細胞、減数分裂、メンデルの法則
第12回	男性生殖器	精巣、精巣輸出管、精巣上体管、精管、射精管
第13回	女性生殖器	卵巣、卵管、子宮、膣
第14回	胎盤	絨毛、母体-血液間腔、胎児循環
第15回	人体発生	月経周期、受精、着床、妊娠、胎児発生

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
4. 知識とその応用			
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。			
		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	① 感性を高める科目 ② 倫理性を高める科目 ③ 論理的思考能力を高める科目 ④ 表現力を培う科目	— 修得の機会がない
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目 ② 人間の理解を深める科目	○ 模擬的な場に知識を応用できることが単

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名： 生化学

(英語名称： Biochemistry)

【担当教員】 森 努

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

システムとしての人体を構成する物質の構造と相互作用を理解し、看護の現場において病態生理を把握する際に必要となる生化学の基礎知識を習得する。

【学習目標】

- 1) 遺伝子の機能・構造と、その異常に伴う疾患の成り立ちを説明できる。
- 2) 生体物質の構造・機能と代謝調節、およびその異常に伴う疾患の病態生理を説明できる。
- 3) ホルモンの種類と機能を学習し、内分泌疾患の成立機序を説明できる。
- 4) 悪性腫瘍の発症機序と治療手段について理解できる。

【テキスト】

系統看護学講座 (医学書院) 人体の構造と機能 [2] 生化学

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価方法】

定期試験で60点以上を合格とする。

【その他 (メッセージ等)】

生化学は現代医学の中心領域です。生化学の視点を持つことは、現場で日常的に見かける生活習慣病や悪性腫瘍を理解するために必要です。要点を押さえた効率的な勉強を心がけて下さい。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	生化学総論	遺伝子・細胞・細胞内小器官・生体物質
第2回	代謝と酵素	栄養素・代謝経路
第3回	糖質の構造と機能	糖質の種類・単糖・二糖・多糖
第4回	糖質代謝	糖質の消化吸収、解糖系・糖新生
第5回	脂質の構造と機能	脂質の種類・脂質各論・リポタンパク
第6回	脂質代謝	脂質の消化吸収、中性脂肪・コレステロール
第7回	タンパク質の構造と機能	アミノ酸とタンパク質の構造・機能
第8回	タンパク質代謝	タンパクとアミノ酸の消化吸収・代謝経路
第9回	ポルフィリン代謝と異物代謝	ヘムの代謝と異常・黄疸、解毒経路
第10回	遺伝子と核酸	ヌクレオチド・DNA・RNA
第11回	遺伝子複製・修復・組換え	DNA複製・DNA修復・修復異常
第12回	転写	転写・転写調節・エピジェネティクス
第13回	翻訳と翻訳後修飾	翻訳・翻訳後修飾
第14回	シグナル伝達	シグナル伝達機構・ホルモン・内分泌疾患
第15回	がん	癌の分子生物学・細胞周期

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
4. 知識とその応用			
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。			
		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	① 感性を高める科目	△ 修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		② 倫理性を高める科目	
		③ 論理的思考能力を高める科目	

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護の基本となる科目
科目名： コミュニケーションに関する技術
(英語名称： Communication skills)

【担当教員】 丸山 育子

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

看護実践の場面におけるコミュニケーションは、単なる情報のやりとりだけでなく、情報に伴う意味や感情も重要となります。その重要性を理解したうえで、援助的人間関係が形成できるような一般的なコミュニケーションスキルを学びます。このとき、重要な位置を占めるのが、自分自身のコミュニケーションの特徴や価値観を知ることです。各々が、自分の特徴を意識し、看護実践の場面で援助的人間関係を築けるようにそれぞれが考えます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

1. 看護場面におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
2. 援助的人間関係を築くための一般的なコミュニケーションスキルを理解する。
3. 各自のコミュニケーションの特徴や価値観を分析して自分自身を知る。
4. 今後、看護実践の場面において援助的人間関係を築くために自分自身に身に付けるコミュニケーションスキルについて考察する。

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考書】

配布資料に記載します。

【成績評価方法】

筆記試験 (50%)、レポート (40%)、授業への参加態度 (10%) を基本とし、総合的に評価します。

【その他（メッセージ等）】

自分を見つめる時間となります。いいことだけでなく辛いと感じることもあるかもしれません。それらすべてが、これから向き合う看護の実践場面で役立ちます。

なお、項目の順序や時間は状況に応じて変更になることもあります。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1～2回	コースガイダンス 看護実践場面におけるコミュニケーション	科目の概要と進め方 患者の手記から考える看護師のコミュニケーション
第3～4回	自分自身の価値観	自分自身の価値観
第5～7回	対人関係に不可欠な要素	共感、傾聴 ジョハリの窓 入院生活における看護師の影響
第8回	感情労働	看護師の感情労働と備え
第9回	コミュニケーションの定義	各自の価値観、メッセージ、意味、感情
第10～11回	看護場面のコミュニケーションスキル 自分自身のコミュニケーションの特徴	援助的人間関係、自分自身のコミュニケーションの特徴、価値観の相違
第12～13回	コミュニケーションスキル	コミュニケーション促進の技法、アサーション
第14～15回	看護場面におけるコミュニケーション	看護師による特別講義、実際の看護場面におけるコミュニケーション

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度・スキルを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の条件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	④ の み 〇	基盤となる態度・スキルを示せることが単位認定の条件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が無い
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区分名： 看護の基本となる科目
科目名： 看護学の基本 I
(英語名称： Nursing Fundamentals I)

【担当教員】 黒田 るみ

【開講年次】 1年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

看護学の導入として、また専門領域を学ぶ上での土台となる科目である。ここでは、看護の責務、看護の歴史、看護理論、看護の対象など様々な角度から看護を考え、理解を深め、看護職の将来を展望し、社会に求められる専門職としての看護について、グループワークやポートフォリオ、パフォーマンス課題を用いて学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 看護学を学ぶ上で、基盤となるものの見方・考え方の概要を説明できる。
- 2) 看護学および看護について、その共通性・相違性を説明できる。
- 3) 看護学に関連する概念、定義を説明できる。
- 4) 看護学における対象の捉え方について、概要を説明できる。
- 5) 看護および看護学の歴史の変遷と看護理論について、説明できる。
- 6) 看護職の責務について、法的側面から説明できる。
- 7) 看護職の将来を展望し、社会が求める看護について、説明できる。
- 8) 看護学に関する概念を具体的な事例に関連づけて理解できる。
- 9) 自己の考えを文字や言葉に表現し、他者と共有を図るとともに、自己評価できる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

1. F. ナイチンゲール著、湯楨ます他訳：看護覚え書 改訳第8版、現代社、2023.
2. F. ナイチンゲール著、薄井坦子他訳：看護小論集-健康とは病気とは看護とは -、現代社、2003.

3. ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます他訳：看護の基本となるもの 再新装版、2016.

その他、授業で紹介する。

【成績評価方法】

定期試験 50% (50 点)、レポート (提出課題)・授業への参加態度 50% (50 点) を合わせて合計 60 点以上を合格とする。

【その他 (メッセージ等)】

これから看護学の専門的な学習を始められる皆さんとともに、看護職がどのような役割を期待されており、看護学はどのような学問であるのか、考えていきたいと思えます。

【授業内容 (学習項目)】

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1 回	オリエンテーション 看護とは何か	看護学の専門家に必要とされるものの見方・考え方について、使命感とは何か
第 2 回	看護の誕生と発展	看護の誕生から現代まで
第 3 回	日本における看護の歴史	医療および看護の歴史の概要、日本の医療と看護の歴史
第 4 回	看護および看護学の主要概念、 看護の対象①	看護および看護学の定義 統合体としての人間
第 5 回	看護の対象②	ライフサイクル、健康と疾病・障害
第 6 回	看護の対象③	生命体および生活体としての側面
第 7 回	看護理論の理解①	F. ナイチンゲールと看護論
第 8 回	看護理論の理解②	V. ヘンダーソンと看護論
第 9 回	看護理論の理解③	看護理論開発の変遷
第 10 回	看護の役割と倫理	看護の具体的役割と機能、倫理
第 11 回	看護の法的側面	保健師助産師看護師法、看護関連法規
第 12 回	看護と保健・医療・福祉	保健・医療・福祉サービスの内容と看護
第 13 回	職業としての看護と教育	看護教育体制、認定看護師、専門看護師、 特定行為に係る看護師の研修制度、キャリア形成
第 14 回	専門職としての看護	国際看護・災害看護の概念、
第 15 回	看護学の基本 I のまとめ	自己の振り返りと学習課題、まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 ② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 ③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△ 修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
4)	法令等の規範遵守	① 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 ② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	△ 修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
2. 生涯学習			
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。			
1)	自己啓発と自己鍛錬	① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件

		③	<p>独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p>		である
		④	<p>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p>		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
<p>自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。</p>					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	<p>人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</p>	●	<p>実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である</p>
		②	<p>人々の社会的背景を理解して尊重することができる。</p>		
		③	<p>看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</p>		
		④	<p>望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</p>		
2)	チームでのコミュニケーション	①	<p>人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</p>	—	<p>修得の機会がない。</p>
		②	<p>チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。</p>		
		③	<p>チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。</p>		
		④	<p>人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。</p>		
4. 知識とその応用					
<p>看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。</p>					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが。単位認定に感がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
				修得の機会があるが、単位認定に関係ない

区分名： 看護の基本となる科目
科目名： 看護学の基本Ⅱ
(英語名称： Nursing Fundamentals Ⅱ)

【担当教員】 黒田 るみ

【開講年次】 1年次 【学期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

看護は、対象が健康な生活を送ることができるように支援する役割を持つ。対象は、健康状態や日常生活の状況、現在に至るまでのプロセスがそれぞれ異なる。同じ病気を抱えていても、対象が必要とする看護は同じではない。対象が求める看護を実践するためには、看護過程が基盤となる。看護過程は、私たちが日常的に用いる問題解決の思考過程が基本となっており、多くの看護実践現場が用いている方法である。この科目を通して、看護を実践するための基本を学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 看護過程の展開と看護実践能力との関連を説明できる。
- 2) 看護過程の目的および構成要素について、説明できる。
- 3) 看護過程の展開が、対象と看護師との相互行為を通して行われることを具体的に説明できる。
- 4) 自身を対象に、情報の整理、アセスメント、看護上の問題抽出、看護目標の設定、看護計画の立案、実施、評価を行うことにより、看護過程の展開技術を実践できる。
- 5) 映像や紙上の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護上の問題抽出、看護目標の設定、看護計画の立案を行うことにより、看護過程の展開技術について、理解を深めることができる。
- 6) 看護過程の展開について、自己の思考過程を記録に表現でき、自己評価できる。
- 7) 課題およびグループワークを通して、自身の思考の傾向や課題に気づくことができる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

- ・香川明夫編：七訂食品 80 キロカロリーミニガイド、女子栄養大学出版部、2017.
- ・チャールズ・デュヒッグ著、渡会圭子訳：習慣の力、講談社、2013.
- ・瀬江千史：〔改訂版〕育児の生理学 現代社白鳳選書 2、現代社、2007.
- ・任和子編著：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（プチナース BOOKS）、照林社、2015.

【成績評価方法】

定期試験 50%（50 点）、レポート（提出課題）・授業およびグループワークへの参加態度 50%（50 点）を合わせて合計 60 点以上を合格とする。

【その他（メッセージ等）】

この科目では、「看護学の基本 I」の学習内容を踏まえ、看護の対象に看護を実践していく方法論について学びます。自分自身の日常生活や健康上の課題を振り返り、“生活過程をより健康的に整えるとはどうすることなのか”について、仲間との討議を重ねながら理解を深めていきたいと考えています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回	オリエンテーション 看護過程の概要①	看護過程の展開および看護実践能力 看護および看護学における看護過程の展開、 看護過程の構成要素
第 2 回	看護過程の概要②	看護の目的と問題解決過程
第 3 回	観察と情報の整理①	観察と情報収集、コミュニケーションと情報 収集、測定用具を用いた情報収集
第 4 回	アセスメントと看護問題の 抽出①	アセスメントとは、ケアリングとは
第 5 回	アセスメントと看護問題の 抽出②	看護問題とは、標準化と個別性
第 6 回	看護過程の展開①	「食事・栄養」の側面からの情報の分析・解 釈、看護問題の抽出
第 7 回	看護過程の展開②	「看護過程の展開①」のグループワークと発 表
第 8 回	看護過程の展開③	看護目標および看護計画の立案、看護記録に ついて
第 9 回	看護過程の展開④	「看護過程の展開③」のグループワークと発 表

第10回	看護実践とその評価①	看護実践の評価・看護計画の修正、対象の全体像を踏まえたアセスメント
第11回	看護実践とその評価②	「看護実践とその評価①」のグループワークと発表
第12回	看護過程の展開の実際①	紙上事例に関する看護計画の立案
第13回	看護過程の展開の実際②	紙上事例に関する看護計画のグループワークと発表
第14回	看護学の基本Ⅱのまとめ①	「関連図」「手順書」「サマリー」の概要と実際
第15回	看護学の基本Ⅱのまとめ②	看護過程の展開能力に関する自己の振り返りと今後の課題

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		に示せることが単位認定の要件である
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場 に知識を応用 できることが 単位認定の要 件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応用 できることが 単位認定の要件 である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		位認定の要件 である
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	○	模擬的な場 で実践でき ることが単 位認定の 要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセス メントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護の基本となる科目

科目名： 看護技術とアセスメント I

(英語名称： Nursing skills and assessment I)

【担当教員】 川島 理恵、丸山 育子、林 紋美、蓬田 美保 他

【開講年次】 1年次 【学期】 通年 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単位数】 3単位 【時間数】 45時間

【概要】

看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

- 1) 看護における看護技術の重要性について説明することができる。
- 2) 人間の休息と睡眠の意義について説明することができる。
- 3) 基本的な環境調整の基本技術を実践することができる。
- 4) 看護における感染予防の重要性について説明することができる。
- 5) 医療の場における手洗いの技術を実践することができる。
- 6) 看護者が動作の基本を習得する必要性を説明することができる。
- 7) 関節の可動域や筋力の状態を把握するための基本技術を実践することができる。
- 8) 移乗・移動動作の基本技術を実践することができる。
- 9) 栄養や排泄が人間の健康な生活に与える影響について説明することができる。
- 10) 経口からの食事摂取に向けた看護の基本技術を実践することができる。
- 11) トイレでの排泄に向けた看護の基本技術を実践することができる。
- 12) 身体の清潔保持が人間の健康な生活に与える影響について説明することができる。
- 13) 皮膚・粘膜・頭髮・衣類の清潔を保つための基本技術を実践することができる。
- 14) 演習を通して対象の状況に近づき、看護者としてのあり方を考えることができる。

る。

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考書】

配布資料に記載します。

【成績評価方法】

評価配分は、筆記試験(45%)、実技試験(45%)、授業への取り組み(10%)を基本としますが、最終的に担当教員間で検討して総合して評価します。100点を満点として60点以上が合格となります。

【その他(メッセージ等)】

対象に沿った看護を実践するためには、対象の状態をアセスメントする能力と技術力が必要です。技術を習得するには、繰り返し練習することが必要です。学生同士で互いに刺激しながら、また、教員も活用しながら共に学んで行きましょう。

単元の順序は、状況に応じて変更する場合があります。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1～3回	ガイダンス 感染予防	看護技術とは 日常的手洗い
第4～6回	休息と睡眠①	リネンのたたみ方、環境調整、ベッドメイキング
第7～9回	移乗・移動動作の基本①	ボディメカニクス、ベッド上での体位変換
第10～12回	移乗・移動動作の基本②	車椅子やストレッチャーによる移送
第13～15回	休息と睡眠②	寝具の交換
第16～18回	関節の動きと筋力	関節可動域の観察、筋力の観察
第19～21回	栄養	経口による食事摂取に向けた援助、食の楽しみ
第22～24回	口腔内の清潔	口腔内の清潔、含漱、誤嚥
第25～27回	衣生活と健康	対象に応じた衣類の選択、衣類の交換
第28～30回	皮膚の清潔①	皮膚の構造と機能、洗浄剤の効果、拭き取りによる清潔保持の特徴、部分清拭
第31～33回	皮膚の清潔②	洗浄による清潔保持の特徴、頭皮や頭髮の清潔

第 34～36 回	皮膚の清潔③	浴することによる清潔保持の特徴、入浴、足浴、手浴
第 37～39 回	皮膚の清潔④	援助を提供する看護者の責任や望まれる態度、全身の清拭
第 40～42 回	排泄	排泄の自立に向けた援助、床上排泄の援助
第 43～45 回	陰部・殿部の清潔	陰部の清潔、尿路感染

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○ 基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	- 修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。	
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	- 修得の機会が無い
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○ 模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	- 修得の機会が無い
		②	看護の実践	
		③	看護を統合する科目	
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の基本となる科目
科 目 名： 災害看護学 I
(英語名称： Disaster Nursing I)

【担当教員】 橋本 真由美

【開講年次】 1年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

災害に関連する基礎的知識を理解し、自身に身近な事柄から災害への対応方法を学習する。

【学習目標】

- 1) 災害の歴史、定義、種類、関連する制度、災害看護の歴史を学び災害看護の概念を理解し、述べることができる。
- 2) 災害サイクルの特徴と健康課題を学び、必要な看護活動について説明できる。
- 3) 地域の災害対策について学び、避難計画を立案することができる。
- 4) 福島における原子力災害の状況を学び放射線防護の意味を考える。

【テキスト】

看護の統合と実践②災害看護学 メジカルフレンド社

【参考書】

- Basic & Practice 災害看護 学研メディカル秀潤社
- 災害看護学・国際看護学 医学書院
- 多職種連携で支える災害医療
- 災害医療 2020 メジカルビュー社

【成績評価方法】

レポート (60%)，課題・授業振り返り提出 (30%)，出席率 (10%) で総合的に判断する。

【その他 (メッセージ等)】

日本は自然災害の多い国であり、何時災害に遭遇するかわかりません。災害時は、

非日常であり様々なリスクと遭遇することになります。普段から、どのような行動や判断をすれば良いのかを一緒に考えていきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	ガイダンス	科目概要、学習内容、評価方法 災害看護学Ⅱとの関連
第2回	災害の基礎知識	災害の定義、災害の種類 災害保健医療体制 災害に関連した法制度 災害看護とは
第3回		
第4回	災害サイクルに応じた看護	災害サイクルとは 急性期・亜急性期 慢性期・静穏期 要配慮者への看護
第5回		
第6回		
第7回	避難・避難後の課題	避難所の特徴と健康課題 事例を用いて健康課題への対応を考える
第8回		
第9回		
第10回	地域防災	ハザードマップとタイムラインの検討 避難経験と現在の取り組み 市の防災対策
第11回		
第12回		
第13回	特殊災害(放射線災害)	特殊災害とは 福島原発事故
第14回		
第15回	まとめ	授業振り返り

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	● 実践の基盤となる知識を示

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護の基本となる科目

科目名： 基礎看護学実習 I

(英語名称： Fundamental nursing clinical practicum I)

【担当教員】 黒田 るみ、林 紋美、川島 理恵、蓬田 美保 他

【開講年次】 1年次 【学期】 前期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 実習 【単位数】 1単位 【時間数】 30時間

【概要】

本実習は、地域で生活する人々として、デイサービスセンターやデイケアセンターの利用者の方々を対象とし、看護の対象理解について学ぶ。対象に積極的な関心を向けること、対象の健康状態の多様性、現在の生活やこれまでのプロセスの多様性を理解することの大切さを、施設実習だけではなく、施設や学内におけるカンファレンスでの意見交換を通し、さらに学びを深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 対象に積極的な関心を向ける。
- 2) 対象の健康状態の多様性を理解する。
- 3) 対象の現在の生活やこれまでのプロセスの多様性を理解する。
- 4) 看護職者としての姿勢を身につける。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

今までの履修科目時に使用した書籍、資料等

【成績評価方法】

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができない(実習前オリエンテーションも実習時間に含む)。評価は、実習態度・実習記録 40%、カンファレンスへの参加度 30%、最終レポート 30%の割合とする。実習指導者の意見を参考に担当教員が評価し、複数で協議の上、最終的に科目責任者が評価をする。

【その他（メッセージ等）】

対象に沿った看護支援のためには、看護者が対象に関心に向け、対象を理解することが重要です。この実習ではその一歩として看護者に求められる基盤を学んでいきます。積極的な関心に向けるとはどのようなことで、対象を理解するとはどのようなことなのか、是非、皆さんの力で獲得して行って下さい。

【授業内容(学習項目)】

1. 実習施設 老人保健施設

2. 実習期間 令和7年11月4日(火)～12月4日(木)
*4週間にわたり週1日(火曜日または木曜日)の施設実習と、週1回の学内カンファレンスを行う。

3. グループ編成：1グループ3～4名程度とする。

4. 実習前オリエンテーション
実習の詳細は、約1ヶ月前の全体オリエンテーションにて説明するため、必ず出席すること。実習目的や実習場所、担当教員の紹介の他、実習の展開方法、カンファレンスの方法、実習記録、実習に際しての留意点などを説明する。また、集合時刻や服装など施設によって異なるため、各担当教員より施設毎の説明を受け、各自主体的に実習に臨むこと。

5. 実習期間中
詳細は、実習要項に記載するが、学生は週1回(火曜日または木曜日)4週にわたり施設を訪問し、利用者の方と関わる。カンファレンスは、施設および学内にて行う。担当教員やグループメンバーと意見交換を通して、学びの整理と自己の課題を明確化する。

6. 日々の記録とレポートを通しての学びの整理および提出
実習中は、日々の学びと学内カンファレンスでの学びを指定の用紙にまとめる。実習終了後には、実習を通しての学びをレポートにてまとめる。レポートにまとめる内容は、施設実習、学内カンファレンス、および5週目で行うまとめのカンファレンスを踏まえながら、実習目的、目標に沿って個々の学びを論理的に整理し、自己の課題を見出す。
*実習の内容は、状況によって変更となる可能性がある。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会はない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会はない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		